石巻市

文化財だより

第16号

もくじ

市指定文化財・宝筐印塔など五件を指定…… 1
昭和61年度・文化財めぐり…… 3
旧町名表示石柱設置事業…… 6
文化財標柱設置事業 …… 7
稲井高木地区の板碑分布調査報告…… 8
鋳銭関係史料目録……29
石巻地方民俗民具資料収集目録……30
受贈図書……40
石巻市文化財だより既刊号案内……41

石巻市教育委員会

市指定文化財 宝筐印塔など五件を指定

石巻市教育委員会では、昭和六十一年十二月一日付けで、あらたに有形文化財五件の文化財を指定しました。これによって石巻市指定文化財は総数十六件となりました。

新しく指定した文化財について、概要を紹介します。

▼宝筐印塔（所在地＝湊字牧山五番地　所有者＝零羊崎神社・宮司桜谷守雄氏）

この塔は宝筐印陀羅の趣旨にそって文化十一（一八一四）年に作塔されたもので、伏見屋吉蔵という人が金百疋を寄進して雄珍の菩提を弔うために建立したものである。江戸時代の作品の特徴として隅飾りが外側にそり返っており、古風を伝える宝筐印塔としては市内唯一のものである。（高さ五・一七㍍）

◀宝筐印塔

▼相輪樓（所在地＝湊字牧山七番地　所有者＝零羊崎神社・宮司桜谷守雄氏）

もともと牧山にあった鷲峯山長禅寺の塔であり、明治時代の排仏毀釈の風潮の中で廃寺になったため神社の付属物として残った。資料の少ない長禅寺の様子を知る手掛りを与えてくれるものであり、また、この塔の作造技術はすばらしく、石造相輪樓（塔）としては県下唯一のものである。（高さ五・四七㍍）

▶相輪樓

▼零羊崎神社奉納絵馬「白馬の図」（所在地＝湊字牧山七番地　所有者＝零羊崎神社・宮司桜谷守雄氏）

万治元（一六五八）年に小（牡）鹿湊の内海小平治が寄進したもので、両側から舎人が白馬を懸命におさえている図が良く画かれており、保存状態がよく古い形式をよくふまえたもので、市内大絵馬中の逸品である。（縦一・六二㍍　横一・九一㍍　縦板四枚合せ）

零羊崎神社奉納絵馬「白馬の図」▶

▼零羊崎神社奉納絵馬「黒馬の図」（所在地＝湊字牧山七番地　所有者＝零羊崎神社・宮司桜谷守雄氏）

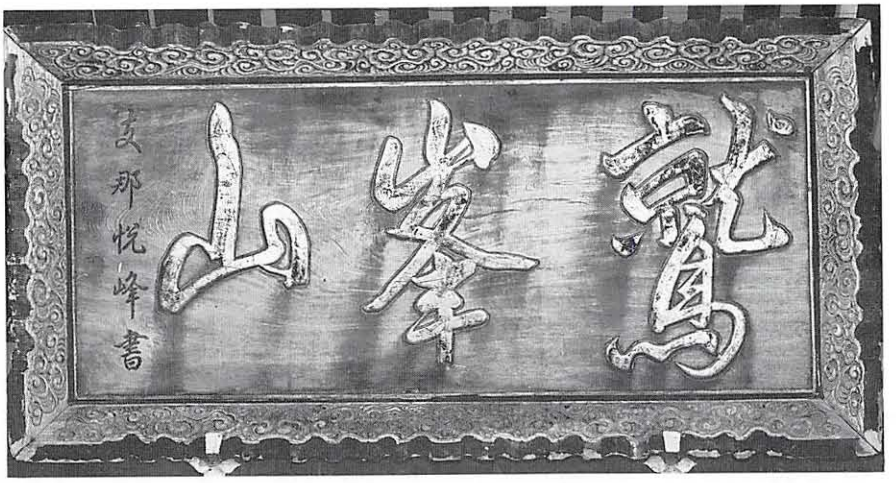
延宝二（一六七四）年の作品で、千石船主により寄進されたものである。古い文献によると絵馬に黒馬を画くのは、日照り続きの時に雨乞いのために奉納されるものとある。この絵馬がそれに通じるかどうかは不明であるが、古い形式をふまえていることはたしかで、金箔地に彩色によりよく画かれており、保存状態もよく市内大絵馬中の逸品である。（縦一・五一㍍　横一・八二㍍　横板三枚合せ）

▲零羊崎神社奉納絵馬「黒馬の図」

▼長禅寺「扁額」（所在地＝湊字牧山七番地　所有者＝零羊崎神社・宮司桜谷守雄氏）

現在、零羊崎神社の拝殿に利用されている牧山観音の別当であった長禅寺の山号額で、書家は支那悦峯である。悦峯は中国浙江省杭州府の人で、貞享三（一六八六）年に渡来し、宝永四（一七〇七）年京都の黄檗宗万福寺の第八代を継いだ人である。この扁額は、明代末の書風をよく伝えており、書道史の上でも貴重なものである。

（縦一・〇一㍍、横一・〇六㍍）



◀長禅寺「扁額」

今回指定した五件のほか、現在市内には、国指定文化財二件、県指定文化財二件、市指定文化財十一件の指定文化財をはじめ、数多くの文化財があります。これらのものはすべて先人が遺してくれた大切な遺産であり、いま生きる私たちの手で大切にして後世に伝えなくてはならないものです。

指定文化財案内

（①所有者（住所）②時代　③指定年月日　④所在地）

国指定文化財

◆重要文化財「岩版」
①毛利伸氏（住吉町一）②縄文　③昭和36年2月1日　④住吉町一

◆史跡「沼津貝塚」
①浅野繁雄氏外十一名（沼津字出外）②縄文～弥生　③昭和47年10月21日　④沼津字出外

県指定文化財

◆牡鹿法印神楽
①代表者：桜谷守雄氏（湊字牧山）　③昭和46年3月2日

◆仁斗田貝塚　①阿部久氏外八名　②縄文　③昭和50年4月30日　④仁斗田内山

市指定文化財

◆多福院板碑群
①三輪宗顕氏（吉野町一）②中世　③昭和50年6月1日　④吉野町一

◆平塚ツナ家文書　①石巻市　②近世　③第一次昭和51年6月1日　第二次昭和53年4月1日　④石巻市教育委員会

◆鳥屋神社奉納絵馬「奥州石ノ巻図」
①桜谷隆氏（羽黒町一）②近世　③昭和53年8月1日　④羽黒町一

◆旧石巻ハリストス正教会教会堂　①石巻市　②近世　③昭和55年12月20日　④中瀬

◆彫刻「潮音」①石巻市　②現代　③昭和55年12月20日　④石巻文化センター

◆イチョウ（二株）①吉祥寺・一方井文章氏（高木字寺前）③昭和55年12月20日

◆イチョウ　①龍泉院・泉孝夫氏（水沼字天似）③昭和55年12月20日

◆葛西椀　①龍洞院・坊沢敏和氏（大瓜棚橋）　②中世　③昭和56年5月18日　④龍洞院

◆彫刻「黒潮閑日」①石巻魚糧工業（松並一）②現代　③昭和56年5月18日　④石巻文化センター

◆石巻市渡波獅子風流　①代表者：千田豊（渡波町）③昭和56年12月19日

◆彫刻「漁夫像」①石巻市　②現代　③昭和57年12月15日　④石巻文化センター

昭和61年度 文化財めぐり

市内二回・市外一回で実施

「市内外に所在する〝文化財〟を見学し、文化財に対する理解と認識を深め、文化財保護思想の普及と保護行政の推進を…」を目的に開催している「文化財めぐり」。今年度は、市内二回、市外一回を実施しました。

10月19日 石巻・牡鹿三十三札所の文化財を訪ねて①

講師＝文化財保護委員　佐藤雄一先生
参加者＝25名
コース＝長禅寺（零羊崎神社）―梅溪寺―宮殿寺―薬師堂―西念寺―浄蓮寺―長谷寺―真法寺―龍泉院―吉祥寺―龍洞院―金蔵寺

▲零羊崎神社

10月26日 栗原地方の文化財を訪ねて

講師＝文化財保護委員　石垣宏先生・築館町文化財保護委員　金野正先生
参加者＝50名
コース＝杉薬師（双林寺）―山王囲遺跡―仙台藩花山村寒湯番所跡―細倉鉱山資料館―旧有壁宿本陣

▲長谷寺十一面観音

11月9日 石巻・牡鹿三十三札所の文化財を訪ねて②

講師＝文化財保護委員　佐藤雄一先生
参加者＝25名
コース＝慈恩院―多福院―広済寺―西光寺―称法寺―濡仏堂―瑞松寺跡―普誓寺―東雲寺―禅昌寺―永巌寺―寿福寺

▲双林寺

〝参加者からのおたより〟

今年度の文化財めぐりには延百人の方々に参加していただきましたが、参加しての感想や要望などがたくさん寄せられましたので、その一部を紹介します。

〈泉町・佐藤さん〉

身近かな所にあの様な貴重な文化財が存在してた事にびっくり致しました。今迄何の気もなく見過して来た物がこれからは良く注意して見学、見聞する事に心掛ける基準が出来ました。

これからもこの様な有意義な心に残る企画を行って下さいます様希望します。

文化財関係 日誌抄

昭和61年4月から62年1月までの文化係（文化財関係のみ）のおもな動きを掲載しました。調査等にご協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

〈4月〉
30日　鋳銭場関係資料（全57点）調査・購入

〈5月〉
7日～8日　羽黒山遺跡測量調査
15日　文化財担当者会議＝多賀城
26日　文化財保護委員会
28日～29日　県史跡整備市町村協議会＝古川市

〈6月〉
2日　真野林道付近遺跡確認調査
10日　五松山洞窟遺跡調査報告書作成打合会
11日　古文書調査
12日～13日　文化財担当者研修会＝多賀城市
25日　五松山洞窟遺跡調査報告書作成打合会

〈7月〉
7日～8日　真野館坂山遺跡現地確認調査
9日　真野館坂山遺跡測量調査
10日～13日　真野館坂山遺跡一部発掘調査
16日～17日　文化財担当者研修会＝大和町

〈西山町・佐藤さん〉

前から西国三十三札所めぐりには興味を持ち、年を取ったら…と思っていた所当地にも三十三札所があり、その文化財を訪ねての文化財めぐりがあることを市報で知り参加させていただきました。石巻に生まれ育ちながら知らなかった数々の文化財、特に零羊崎神社の絵馬や相輪樘、平形薬師の和算額など、先生の丁寧な説明で大へん勉強になりました。今後はいただいた資料を参考に自分の足で廻ってみます。

〈住吉町・及川さん〉

（略）なつかしい幼い日を思い出す湊の阿弥陀坂、何時も不思議に思っていた地蔵堂、観音堂の御開帳を仰ぎ、参加の意義をしみじみ感じました。石巻にもこんなにすばらしい遺跡、文化財があったとは、始めて知り、又機会があったら是非と思わずにいられませんでした。（略）

春の企画を是非お待ち申したい気分でいっぱいです。

十三仏　板碑の中の
昔も今も　変らぬ供養
ただ、ひたすらにありがたや

今日ほんとうにありがとうございました。

〈Aさん〉

（略）築館の双林寺の重要文化財や花山御番所の昔の日常生活などはじめいろいろな参考になる資料でした。中でも、有壁本陣は往時を偲ぶ生活が想い起され武家文化の発展を知る事が出来ました。講師先生のねんごろな御説明を感謝します。（略）

〈東中里・中村さん〉

（略）有壁本陣のすばらしい建造物、そしてわかりやすく楽しい講師先生のお話、本当にありがとうございました。これからもどしどしこのような文化財めぐりを企画してください。

〈蛇田・大槻さん〉

すばらしい企画・運営でした。初めての参加でしたが、今後も是非参加したいと思います。経費が安かったので大分運営に気をつかったのではないでしょうか。こんなにもり沢山で二千円とは……と考えました。時期的にも紅葉の季節でしたので景観もすばらしく、講師の先生方もわかりやすく説明していただいたので大変勉強になりました。（略）

〈Bさん〉

聞くと見るとは大違い。びっくりの連続でした。自分が豊かになったことに、心から満足ができました。是非この次にも参加させて下さいお願いします。

〈Cさん〉

①大変よい企画でした。係の方に感謝いたします。

②出来れば昼食代を含めた参加料にして

▲慈恩寺

▲平形薬師堂「算額」

22日～23日・28日～31日　市政教室〝沼津貝塚〟
30日　平塚ツナ家文書調査

〈8月〉

5日　文化財保護委員会
10日　市指定文化財市外移出（29日まで）
18日～21日　五松山洞窟遺跡調査報告書作成打合せ＝東京

〈9月〉

1日　平塚ツナ家文書寄付採納
4日　重要文化財「岩版」調査
10日　文化財保護委員会
12日　五松山洞窟遺跡調査報告書作成打合会

〈10月〉

2日　梨木畑及び鹿妻貝塚調査
7日・15日　市指定文化財候補物件調査
17日　文化財担当者研修講座＝南方町
19日　文化財めぐり実施（市内）
26日　文化財めぐり実施（市外）
28日　梨木畑及び鹿妻貝塚現地協議

〈11月〉

9日　文化財めぐり実施（市内）
18日　文化財調査（多福院ほか）
19日　文化財パトロール（屋敷浜貝塚ほか）
25日　文化財保護委員会
28日～29日　館跡測量調査（鷲の巣館ほか）
29日　文化財調査（草刈山）・市指定文化財告示（宝筐印塔ほ

いただき参加者全員で食べられた方がよかったと思います。その土地の食物（例えば山菜料理）などを。

③講師の説明、わかり易く大変良かったと思います。何んとなく通り過ぎていた地にもいろいろ由来があったのですね。来年も是非参加させていただきたいと思います。

〈渡波町・伊勢さん〉

（略）何回となく足を運んでも見られなかった貴重な石碑、六十年毎に開かれる仏像、吉野先帝の供養碑など、奥にまで入れていただき手にふれさせていただけたことはこの上ない経験でした。本物の文化財にふれることができとても感激だったと何回も繰り返し話し合っています。板碑という言葉すらわからなかった私たちにくわしく教えていただき、その一枚の石にいろいろの内容のある事も教えていただきました。（略）

渡波地方は、中央から程遠い、文化の遅れた淋しい地方とのみ思い込んでいましたがいろいろ歩き、ずい分親しみが深まってきました。ただ感謝あるのみです。希望＝拓本のとり方の様なのも指導していただきたい。四国のお寺の様に○番の札所の立札や次の寺へ行く道順、札所の配置図などあると便利。その寺の有名な碑や絵馬等の写真絵葉書等を用意されては。（略）

▲釜西古墳わきにある願王地蔵碑にて

〈日和が丘・菅原さん〉

（略）三十三札所の文化財めぐりに参加して、こんどのくらい印象深く感動した事はありませんでした。身近なお寺さんの事なのでしょうか。私達は広済寺の壇家ですが今迄、この様な由緒あるお寺とは知らず、お施餓鬼などに行っても唯素通りでした。これからは心してお寺の中を拝んでこようと思っております。こんどの十三のお寺のそれぞれの由緒やら国宝的な文化財があるのに、ほんとうにおどろいております。（略）

〈大手町・日野さん〉

（略）国宝杉薬師には二十年前位に参拝した事がありますが古い石段と古い御堂の記憶でしたがもうすっかり近代的な石段と立派な双材寺になっていました。さすが千三百年の大杉が空高くそびえ繁っているのを見た時、幾星霜経た歴史を思う時、感無量のものがありました。

（略）鉱山資料館や有壁本陣など説明付きでゆっくり見学できましたこと、講師の先生方も最後まで丁寧に御説明いただき感謝申し上げます。ありがとうございました。（略）

▲花山御番所前

文化財愛護シンボルマーク

このマークは、文化財愛護運動を全国に押し進めるための旗じるしとして、昭和41年5月に定められたものです。ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱（ときょう）（組みもの）のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

か四件）

〈12月〉

1日　市指定文化財指定書交付・鹿妻貝塚立合調査

4日　文化財パトロール（牛の鞍館ほか）

8日　文化財調査（釜西古墳）

10日　真野館坂山付近遺跡調査

12日　文化財調査（沼津貝塚ほか）

17日　文化財調査（大和田・大瓜南境館跡ほか）

〈1月〉

1日　市指定文化財・旧石巻ハリストス正教会教会堂テレビ中継

8日　文化財調査（永巌寺・寿福寺・禅昌寺板碑所在調査）

9日　文化財調査（東雲寺・西光寺・釜地区板碑所在調査）

12日　文化財調査（寺館・小屋館館跡調査

13日　文化財調査（竹ノ下館跡ほか）

26日　文化財調査（前田地区遺跡調査）

27日　文化財調査（高木古館ほか）

旧町名表示石柱設置事業

〝旧町名〟石柱設置で由緒ある町名を後世に…

「合理的な住居表示を…」という目的で、昭和37年に制定された「住居表示に関する法律」により、翌38年から全国の各都市に順次町名の変更がされています。

石巻市においても昭和40年からこの新しい住居表示を実施、町名が変更されています。

新しい住居表示の特徴は、これまでの「通り」を単位とした町名ではなく、従来交流のなかった背中合わせのブロック単位の「街区方式」となっています。

地名は民俗学と古代史を結ぶ接点であり、かけがえのない文化遺産だといえます。由緒ある町名を後世に伝えるということは、今生きる私たちの大切な役割りではないでしょうか。

石巻市教育委員会では、なくなってしまった町名を後世に伝えるため、昭和56年度から「旧町名表示石柱設置事業」を行い、昭和64年度までの計画で、市内20か所に設置する予定でいます。

《昭和56年度設置》

『新田町』＝千石町（石巻グランドホテル前）

『渡波本町』＝渡波町三（内海笑方前）

『湊本町』＝湊町一（湊幼稚園前）

《昭和57年度設置》

『横町』＝千石町（河北新報社前）

『中町』＝中央二（丸光石巻店前）

『九軒町』＝門脇町二（消防第三分団前）

《昭和58年度設置》

『立町』＝立町一（振興相互銀行前）

『面剣田』＝清水町一（ニイヌマビル前）

『八ッ沢』＝泉町一（八ッ沢緑地公園内）

《昭和60年度設置》

『後町』＝門脇町二（西光寺前）

『袋谷地』＝水明南二（長林寺前）

《昭和61年度設置》

本町

中央一・旧石巻郵便局前

登米郡米谷城主の千葉大隅守信胤は葛西氏の滅亡に伴い石巻へ移住、本姓を避けて米谷と称したが、信胤の孫米谷正兵衛信之はこの地域を開発、本町元祖と仰がれた。石巻村最初の宿場であるため、物事の根元の意の「本」が町名となった。江戸中期の「石巻絵図」に仮館御殿、米蔵、御金改方旅宿が見える本町は、正保二年（一六四五）に没した米谷七兵衛（正兵衛の子）の甥・喜兵衛の在住当時は「米谷喜兵衛町」とも呼ばれていた。

坂下町

中央一・永巌寺参道入口

孫兵衛運河の一つ「開運堀」（広小路）以南の鰐山坂、日和山坂への折り回し道二本に囲まれた「南鰐山八ッ沢」の地域は、牡鹿郡役所わきに石巻・湊・門脇・蛇田四か村戸長役場が落成した明治十八年春以来、民家急増による街区の形成を仰えたため、宮城県令松平正直は住民の請願に基づく四か村連合戸長小梁川明康の町名許可願を裁下。明治十九年四月十三日に新町名「坂下町」が誕生した。

市指定文化財

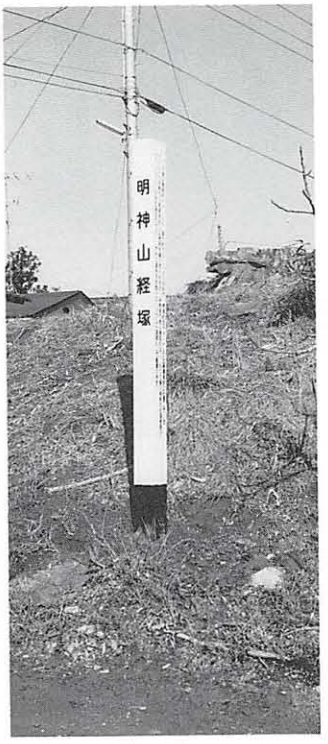
平塚ツナ家文書寄贈される

昭和61年7月8日、桃浦の杉山初太郎さんから「市指定文化財平塚ツナ家文書所有者平塚ツナさんがこの文書を市に寄贈したいとのことなので―」との連絡がありました。市教育委員会ではさっそく杉山さんと文化財保護委員石垣宏先生に同行していただき、平塚さん方を訪問しました。

現在平塚さんはひとり住いで、先祖から引き継いだこれらを家宝として大切に保護保存してきましたが、家宝であり市にとっても重要な文化財が、今後散逸してしまうのではないかと心をいためており、甥に当る杉山さんに相談し今回の寄付申し出となったことを話して下さいました。

7月30日、平塚さんの手から離れ島を出る「古文書」に対し、まるで我が子を送り出すようなまなざしを忘れることができませんでした。

平塚さん、ありがとうございました。市ではこれらの史料を市史編纂（さん）の資料としてや文化センター展示構想の中で活用してまいります。



▲文化財標柱「明神山経塚」

文化財標柱設置事業

文化財の周知により保護・保存をはかる

石巻市教育委員会では、市内にある数多くの遺跡や史跡をはじめ各種文化財の保護、保存のため、その所在等を広く一般の方々に周知することが必要と考え、主な遺跡に標柱を設置しています。

今年度は、新しく市指定文化財として指定した「宝筐印塔」「相輪樘」のほか建替え分三本の計五本を設置しました。

先人が残してくれたかけがいのない文化遺産を保護、保在されるよう特段のご協力をお願いします。

《昭和61年度設置標柱》

◆市指定文化財　宝筐印塔（ほうきょういんとう）（文面省略）

◆市指定文化財　相輪樘（そうりんとう）（文面省略）

◆明神山経塚　この塚は直径約十㍍高さ約三㍍の円形で、標高約五十㍍の丘陵最高部に位置している。マウンドの状態から経塚あるいは後期古墳と思われるが、未発掘であり確証がない。かって塚の南側から須恵器が出土したらしいが現在確認できない。市内に遺存する数少ないマウンド遺構として貴重である。

▼設置場所＝山下町一丁目十七―二十一

◆釜西古墳　この遺跡は、元来円墳であろうと推定され、高さ約四㍍直径約十五㍍程度であったが、製作年代・主体部の状況等は明確でなく、残在する墳丘も半壊しており、かなり変形されているため、主体部はすでに失われているものと考えられる。

▼設置場所＝門脇字築山九―二

◆屋敷浜貝塚　この遺跡は、縄文時代中期から晩期（約四六〇〇年前から二四〇〇年前）にかけて形成された貝塚で、標柱東部標高約四十㍍の丘陵頂部周辺を占めている。これまで釣針、銛、石器、土器を多出しており、規模が大きく出土物が豊富であり、非常に重要な遺跡である。

▼設置場所＝渡波字屋敷浜七

《文化財標柱及び設置場所》

南境貝塚＝南境字妙見
小沢貝塚＝高木字小沢
にら塚貝塚＝流留字原
釜東古墳＝門脇字西三軒屋
真野萱原伝説地＝真野字萱原
延喜式内社曽波神社＝蛇田字曽波山
好日山海門寺跡＝日和が丘一
延喜式内社鳥屋神社＝羽黒町一
仁斗田貝塚＝田代浜字内山
延喜式内社零羊崎神社＝湊字牧山
仙台藩穀倉跡＝住吉町二
渡波塩田跡＝流留字新田
久米幸太郎仇討の地＝渡波字祝田浜
榎本武揚艦隊集結地＝折浜字風越
鹿島御児神社＝日和が丘二
袖の渡し＝住吉町一
蛇田道将軍碑＝田道町二
新山崎遺跡＝蛇田字新山崎
内原遺跡＝内原字小山
アチヤ浜遺跡＝牧浜字福貴道
一本杉貝塚＝渡波字須崎浜
梨木畑貝塚＝渡波字梨木畑
垂水囲貝塚＝渡波字垂水地内
堤貝塚＝渡波字搭坂山
平形山根貝塚＝字平形山根
多福院板碑群＝吉野町一
鷲の巣館跡＝大瓜字鷲の巣
寺館跡＝真野字萱原
専称廃寺板碑群＝湊字鹿妻
長谷寺板碑群＝真野字萱原
観音堂板碑群＝高木字竹下
慈恩院板碑群＝吉野町一
草刈山板碑群＝吉野町一
平形貝塚＝沢田字平形
南境館跡＝南境字館下
坊沢山龍洞院＝大瓜字棚橋
京ヶ森館跡＝京ヶ森
高木古館跡＝高木字石崎
鶴子坂館跡＝沼津字八幡山
越田台遺跡＝沼津字越田
日和城祉登り口＝日和が丘一
市指定天然記念物イチョウ＝高木字寺前
市指定天然記念物イチョウ＝水沼字天似
亀向山龍泉院＝水沼字天似

▲文化財標柱「釜西古墳」

▲文化財標柱「屋敷浜貝塚」

昭和六十年度　文化財調査報告

石巻市稲井高木地区の板碑分布調査

石巻市文化財保護委員　佐藤雄一

◆調査期間
昭和六十年七月二十三日～二十五日

◆調査員
佐藤雄一（宮城県石巻高等学校）

◆調査補助員
赤道康枝　阿部光宝　菊地由加
加藤由美　竹谷尚子（石巻市立女子商業高等学校）　岡孝子（石巻市立女子高等学校）

1、調査区域の概要

本年度の調査区域である高木地区（藩政時代の高木村）に関する記録は、稲井町史に、石巻城主葛西宗清（十二代）が永正八年飯野川の七尾城功略の陣を布いた時、牡鹿高木の邑主高木四郎右衛門も召されて参戦した事実があるとし、この高木氏の居住するところによって高木の地名の由来としている。（出典不明）

これが高木村についての中世の記録らしきものであるが、一方、「安永風土記」には「鍛治屋敷址地ニ大木有之、右古木枯失、代木當時松壹本廻壹丈四尺五寸御座候今以村名ニ唱来由云々」と記している。

板碑調査との関連性では前者の記述が注目さるべきだろう。安永風土記による高木村の基本的な状況は次のようである。

一田代　五拾九貫六百三拾五文
一畑代　六貫六百七拾壹文
　　内茶畑壹貫八百文
　　一弐拾七貫七百五拾七文　御蔵入内
　　一三拾八貫五百四拾九文　御給所
都合六拾六貫三百六文
（中略）
一人頭　八拾人　内寺壹ケ寺
一當村寛永十八年御竿答御百姓ニ相立候者三拾壹軒其後四拾九人相増當時右人頭ニ罷成候但沽却禿一圓無御座候事
一家數　八拾七軒　内　名子七軒
一男女都合　六百六拾文　内男三百五十五人女三百五人
一馬　九拾弐匹
（下略）

この記録から中世高木村の姿を類推することは困難なことではあるが、参考として記しておくことにする。

2、板碑造立の状況

a、板碑造立地区

高木地区は江戸期の旧高木村である。東は水沼（旧水沼村）と接し、西は大瓜（旧大瓜村）に連なり、南は真野（旧真野村）の境土手まで、北は桃生郡河北町三輪田を境として、上品山頂にいたる。したがって、高木地区の集落は上品山丘陵麓にほぼ切れ目なく西端から、石崎、小西、清水、寺前、若宮、小沢と続いている。

これら七つの集落のうち板碑造立が確認されるのは清水地区の竹下にある観音堂周辺、寺前の蓬来山吉祥寺、若宮地区の八幡神社境内、さらには上品山登り口の寺場跡と呼ばれる四地区である。しかしながら、上品山寺場跡の板碑群については、なかなか確認ができず、報告書がほぼ書き上げられた二月に入ってから、日野孝栄氏の案内によって、ようやく確認できたので、今回の調査報告に含めることはできなかった。次回の調査報告に詳細を記すことにする。

高木地区の板碑が集中しているのは観音堂周辺である。この高木観音堂板碑群については文化財だより第三号において概要は報告されているが、その後確認されたものを含めての悉皆調査報告ははじめてである。高木観音堂板碑群については以前から注目されていたところである

が、観音堂そのものについての調査はなされていなかった。高木地区の板碑造立の96％という多数の板碑がこの観音堂周辺に集中していることから、観音堂そのものの性格が重要な意味をもつものと思えるので、観音堂について知り得た状況を記しておく。

宮城県史所収の「牡鹿郡陸方高木村風土記御用書出」（以下風土記書出と略称）には、高木観音堂については、

一観音堂
一小名観音堂屋敷
一境内　亥ヨリ丑江十二間　寅ヨリ申江九間
右境内ニ続之内古碑貳拾（十九）ハ古碑之部ニ御書上仕候外無縫塔又ハ四五寸宛相見得古碑所々相立申候得共見分無之候間御書上故仕候事
一堂　已午向貳間四間
一本尊　聖観音　木像坐像　御長壹尺壹寸　但作者相知不申候往古天台宗日塔山観音寺本尊ニ御座候事
一地主　観音堂屋敷　市郎右衛門
一別當　市郎右衛門
右市郎右衛門儀日塔山観音寺跡ニ住居仕候代数御百姓之部ヘ御書上仕候事

とある。現在の高木観音堂は、石巻地方における曹洞宗の浸透によって、それまで存在していた天台宗寺院日塔山観音寺が廃寺になったので、寺跡に観音堂を建立し、観音寺の本尊聖観音像を安置、日野氏が氏神として祀ってきたものであるという。

中世寺院と推定される日塔山観音寺と板碑の接点が十分に考えられるわけである。昭和四十九年度高木観音堂調査の後、

観音堂板碑群
測量図
S52. 12. 17～18　実測

観音堂

※○および×印は板碑の位置
（現在は正安3年、4年の二基をのぞいて全部観音堂に移動している。）

正安3年、4年の碑

中村光一氏作成による高木観音堂と板碑群の原位置との関係測量図掲載しておく。（図前頁）

また、地主市郎右衛門の子孫は観音堂前に居住している日野孝栄氏であり、日野氏は大塔宮護良親王に随って当地方に下ってきたといい、明治の初期までは日野塔氏を称していたことが、地券の記載によって確認できる。現在日野氏は上品山の久集比奈神社の別当を担当していることもあって、観音堂の管理は日野良吉氏にゆずっているという。

b、板碑造立数について

高木地区の板碑については、風土記書出には、古碑三拾基（上品山の三基を含む）とあるが、実際には二十六基の記載があるだけであり、稲井町史によれば、二十一基（上品山の二基を含む）となっている。宮城県内の板碑をまとめた宮城県史(13)金石篇には十九基（上品山の一基を含む）となっており、時代が下るにしたがって確認される板碑の数は減少している。このことは、年月の経過とともに、板碑が失われていったものと考えれば、ごくあたり前のように思えるが、今回の調査で判明した紀年銘のある板碑は総数で五十七基（上品山の板碑は含まない。）であるので、この稲井町史、宮城県史における板碑の減少は、単に板碑が失われたということではなく、調査の杜撰さによるものであるということができる。

今回の調査で確認された板碑総数は断碑も含めて九十六基（上品山板碑は含まない）であり、その96％の九十二基は高木観音堂に集中している。このことは中世寺院と推定される日塔山観音寺とのかかわりで考察されるべきものであると思われるので、今回の調査における収穫であった。

地区名	数量
観音堂（竹下）	九十二
吉祥寺（寺前）	一
八幡神社（若宮）	三
合計	九十六

c、時代区分と板碑造立の状況

総数九十六基のうち紀年銘の確認できるものは五十九基である。

時代区分	数量
鎌倉期	八
南北朝期	二十三
室町期	二十八
不明	三十七
合計	九十六

上限は永仁五（一二五七）年、下限は長享二（一四八八）年である。これら紀年銘のある五十九基を中心にして、高木地区の板碑について若干の考察をしてみたいと思う。

①時代区分と板碑の形態

通例板碑の形態は鎌倉期は比較的大型であり時代を下るにしたがって、その形態は小型になると考察されている。今回の調査でも、このことははっきりと観察することができる。

観音堂脇に立つNo2 No3の正安三年、正安四年の二基をはじめとして、No5の若宮八幡神社の延慶二年の碑に代表されるもの及び観音堂入口に立つNo6の阿弥陀三尊（延慶二年）碑は高木地区における鎌倉期の板碑の代表であり、大型板碑の典型でもある。室町期に入るとこれをしのぐ大型板碑の造立はないのである。

②時代区分による種子の変化と供養内容

種子は板碑の形態に応じて、鎌倉期から南北朝初期にかけては大きく堂々としている。その中で、強いて特徴としてあげるとすれば、阿弥陀三尊種子が四基あり、また、No5延慶二年の阿弥陀種の荘大な彫り方が注目さるべきだろう。鎌倉期の種子については例示さるべきものも八基と少ないので、断定的なことはいえないが、鎌倉期には、室町期に入ってから阿弥陀三尊種子がまったく表われていないことから、阿弥陀三尊種子を中心にして造立されているように思える。

これが南北朝期中期から室町期に入ると一変するようである。それは、次の表で読み取ることができるように、バン（胎蔵界大日如来）が主流を占めるようになっている。（年代不明のもののバン種子をふくめると二十二基なので二位のサクを断然引きはなしている。）このことは現代社会の卒塔婆供養の際に塔婆にしるされるバン種子の源流のようなものが室町期に入って形成されたことを知らしてくれているのではなかろうか。なぜ、バンが主流としてしるされるようになったかは、塔婆供養に対する当時の人々が接したかたちに変化があったのだろうということは類推することはできるが、私には宗教的な説明を加える力はないので、後日の研究に待ちたいと思う。また、南北朝中期から室町期になると三尊種子はまったく現出することがなく、一尊種子だけである。これは卒塔婆造立と年忌供養とが確実な形で普及していった結果と思える。

南北朝・貞和以後の種字の状況（頻度の多い順）

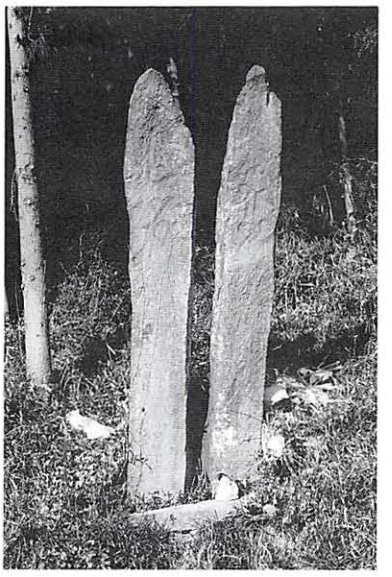
バン（金剛界大日）	十四
サク（勢至菩薩）	八
サ（観音菩薩）	四
カ（地蔵菩薩）	三
バーンク（金剛界大日）	三
タラーク（虚空蔵菩薩）	二
アーク（胎蔵界大日）	二
アーンク（胎蔵界大日）	一
キリーク（阿弥陀）	一
サク・カ（勢至菩薩・地蔵菩薩）	一

d、特記すべき板碑

①正安三年並びに正安四年碑（No2 No3）

両者ともに観音堂右側斜面の下端に並んで立っている。ほぼ造立当時の原位置を保っていると推定される。高さはともに290cm、280cmと大型であるが、厚さは14cm、20cmと割合いと薄手の板碑である。さらに上部になだらかな反りがあり、板碑作成上の技術上の問題をなげかけている。

また、No2の銘文中に「夫卒都婆者大日如来三广耶形」とあり、卒都婆の何たるかをはっきりと表現しており、板碑が卒都婆であるとする考え方を証明しているものである。



▲No.2・3 正安三・四年の碑
（原位置のままと思われる）

②若宮八幡神社の延慶二年板碑（No.5）

八幡神社石段中ほどを右手に数メートル入ったところに表面を上に横倒しになっている。全長352cmは高木地区における板碑中最大のものである。種子キリークは縦72cm、横60cmと種子の壮大さでも他を圧している。しかるにその厚さは最大でも14cmと意外と薄手である。このことはNo.2 No.3の正安碑が上部に反りをもち、比較的薄手であることと考え合わせれば、高木地区における板碑作成の一端をさぐる手掛りになるのではなかろうか。

また、これは「三十余人之念佛衆」によって造立された結衆板碑でもある。一般的に結衆板碑は室町時代以後に造立されるとされているが、この板碑を観察する限りにおいては鎌倉時代にすでに造立されていることがわかる。結衆板碑の全国的な造立時期の確定調査がなされる必要があると思う。

また、結衆板碑は宗教的な面のみから観察されがちであるが、私はもっと現実的な面からの観察も可能なのではないかと思っている。すなわち中世武士団の「一味神水」による「一揆契約」の行動が、宗教的な形で表現されたものが結衆板碑の造立ではないのだろうかと考えているのである。もし、結衆板碑をこのように観察することが妥当であるとするならば、板碑を通しての在地武士団の様子がより一層はっきりと認識されるようになるのではないだろうか。

③観音堂入口（秋葉大権現の小社内）（No.6）

延慶二年の造立なので、八幡神社の延慶二年の結衆板碑と同年代のものである。阿弥陀三尊種子に各々蓮台がついており、作成技法のすばらしさは拓本によってたしかめることができる。石巻市内板碑でも屈指のものということができる。しかし、惜しいことには種子、蓮台の彫り方は極端に浅く、直接、そのすばらしさを確認できないのは残念である。

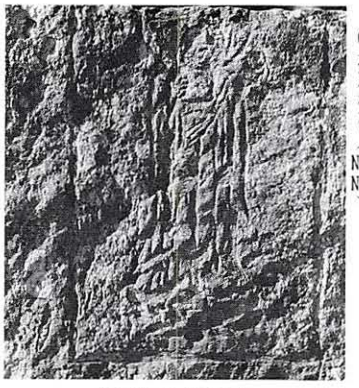
④観音堂興国元年碑（No.12）

種字は阿弥陀三尊であるが、キリーク、サクの涅槃点が種子の下部に置かれ、変形している。興国元年銘は南朝年号であり、石巻地方においてはあと二・三年で南朝年号がまったく表われてこないことを考えると貴重なものである。

⑤三本足の烏と兎の碑（No.61）

まったく奇妙な図柄である。板碑というにはちゅうちょさせるものであるが、図柄の下部にキリークと覚しき彫り込みがあるので、一応、諸家の注意を喚起したいと思って入れてある。

⑥地蔵板碑（No.80 No.88）



▲No.80 地蔵板碑

両碑ともに右端で確認される「右志者為□□□□」という文字で、一応地蔵板碑として入れてあるが、特にNo.80の碑は興国二年の紀念銘があり、全体の銘文から板碑として間違いのないものと思う。地蔵板碑と確定することができれば、石巻市内では初見である。

e、偈について

高木地区において確認された板碑の偈は次のようなものである。おおよそ表われた年代順に記してある。

①三界唯一心　心外無別法　心佛及衆生　是三無差別
（正安四年碑No.3）
出典＝華厳経
・教典の中の文句を集めて作った偈でこの形であるのではないが、華厳経の偈として作られたものという。

②光明遍照　十方世界　念佛衆生　攝取不捨
（興国元年碑No.12）
出典＝観無量寿経

③一念弥陀佛　即滅無量罪　現受無比楽　後生清浄土
（貞和二年碑No.13）
出典＝観世音菩薩浄土本縁経

④一切有為法　如夢幻泡影　如露亦如電　応作如是観
（延文五年碑No.23）
出典＝金剛経

⑤十方三世佛　一切諸菩薩　八方諸聖教　皆是阿弥陀
（貞治二年碑No.24）
出典＝不明
・この偈は、古来、本朝浄土門古徳の釈文と伝える。

⑥岳深無相法　出典＝不明
当恵□□□
為□□□□
□□有相説
（応安六年碑No.26）
・既刊の文献にも見出せない。

⑦衆生有苦　出典＝往生要集
三称我名
不往救者
不取正覚
（応永二年碑No.31）

⑧□位即妙　出典＝不明
不改本□
（応永三年碑No.33）

⑨我之名号　出典＝薬師経
一経其耳
衆病悉除
身心安楽
（応永五年碑No.34）

⑩毎自作是念　出典＝法華経如来寿量品第十六、
以何令衆生
得入無上道
速成就佛身
（応永二十一年碑No.37）
通称を破地獄偈という。

⑪應無所住　出典＝金剛経
而生其心
（応永二十六年碑No.42・永享二年碑No.48・永享No.50）

⑫十方佛土中　出典＝法華経方便品第二
唯有一乗法
無二亦無三
除佛方便説
（応永二十七年碑No.No.4743）
応永

⑬始知衆生　出典＝円覚経
本来成佛
生死涅槃
猶如作夢
（永享……No.49）

⑭三世常住　出典＝不明
大日如来
（文明十一年碑No.55）
・既刊の文献にも見当らない。

高木地区の板碑に表われた偈を考察してみると、総数が百基近くになることもあってか、偈の種類も多く、従来、見出せなかった偈も数例あったことは注目に値する。

3、板碑作成上の問題点

石巻地方における板碑作成上の技術的な問題については、ようやく研究が始められたばかりなのでこれからの研究成果に期待するが、今回の調査過程で感じたことを若干記しておくことにする。

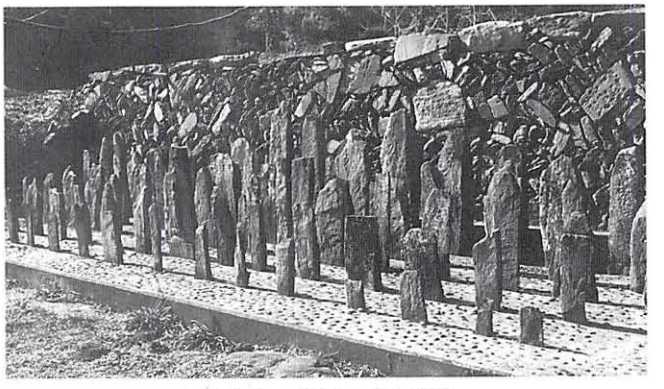
従来までは、石巻地方もふくめて、東北地方の板碑は一般に分厚く、自然石に彫り込まれていると理解されてきた。しかし、この分厚いということは石巻地方においては、すでに鎌倉末期ごろから、大型板碑でありながら、驚く程薄手に調整されているものが表われてくる。No.5の延慶二年碑がその代表であろう。かくまで、大型板碑を薄手に調整した当時の石工の技術は高く評価されるべきではないだろうか。

さらに、東北地方の板碑に対する自然石利用という板碑の概念であるが、今回の調査カードの作成過程で、板碑の側面図をも観察することにした。その結果、板碑作成にあたっては表面はもちろんであるが、側面についてのある程度の調整が行われているということが観察された。このことはもっと多数の板碑について綿密に観察することによって裏づけられるような気がする。したがって、このごろ、東北地方の板碑を自然石碑という表現で記してあるものもあるが、上部三角形二条線の欠落ということから自然石碑という概念規定をあいまいにして、単に不整型だから自然石碑と表現することは妥当性を欠くことになるのではないだろうか。板碑はあくまでも卒塔婆（供養碑）としての内容を適確に表現することによって呼ばれるべきであると思う。

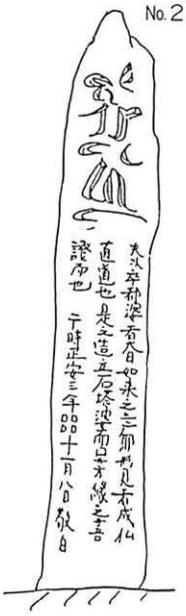
4、保存について

高木観音堂板碑群の本格的な調査は昭和四十九年に石巻市教育委員会の事業として行われ、その現在地に固定保存されるようになったので、移動・粉失のおそれはなくなった。しかし、今回の悉皆調査で判明したことであるが、観音堂後背地の整地によって、十基ほどの板碑が出土しているようである。現在これらは観音堂前に固定されることはなく横倒しのままになっている状態なので、これらはしかるべき処置を講ぜられるようのぞむものである。

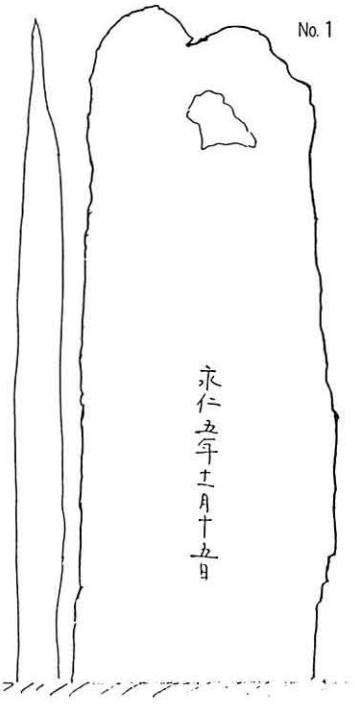
さらに、早急に保存対策を考えなければならないものに、若宮八幡神社石段右側に放置されている延慶二年の念佛衆板碑がある。これは鎌倉時代の代表的な板碑として位置づけることができるものであり、結衆板碑の参考史料として、そして、板碑製作の技術を考える上での参考作品として実に貴重なものと思われるので、この際、文化センターの前庭か、展示場の一遇に移動保存し、市民に対する郷土学習の一助とすることも一策ではないだろうか。



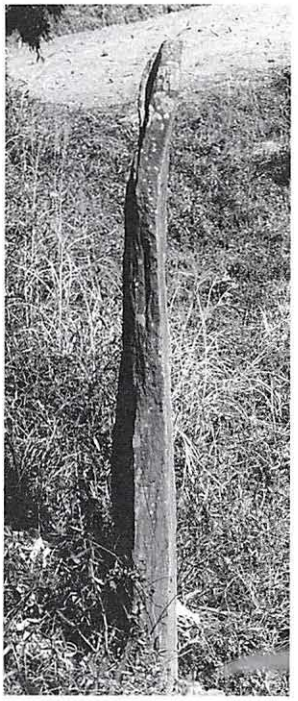
▲観音堂前に固定された板碑群



高さ：290cm　幅：40cm
厚さ：20cm　粘板岩

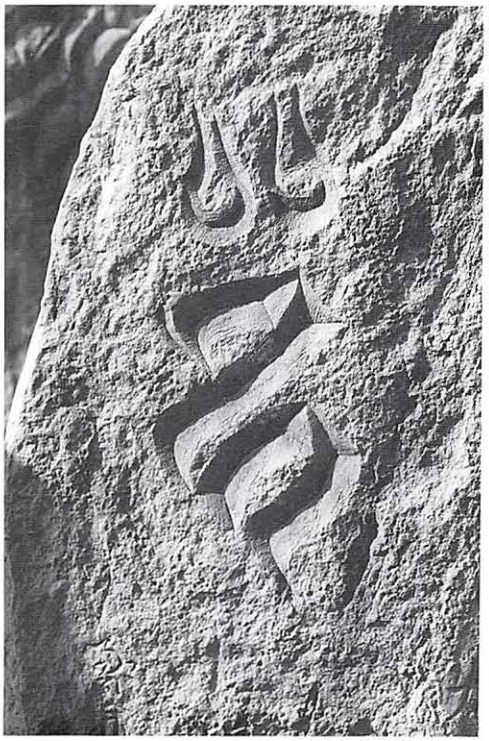


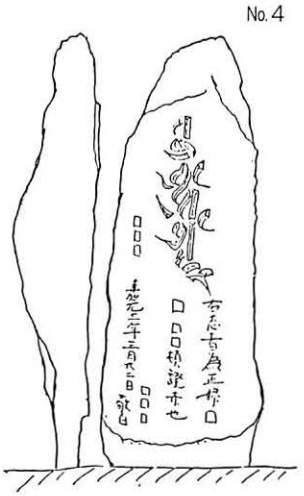
高さ：108cm　幅：40cm
厚さ：11cm　粘板岩



▲No.3の側面

▼No.14の板碑

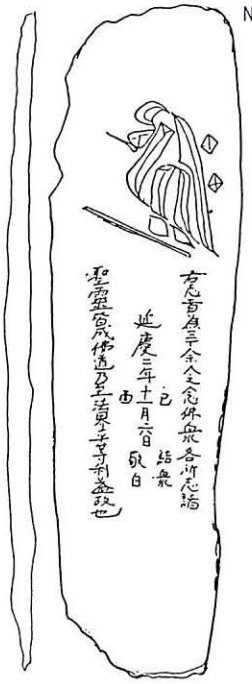




高さ：116cm　幅：34cm
厚さ：18cm　粘板岩

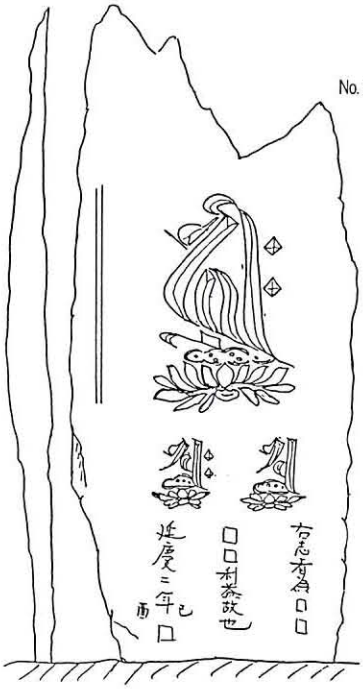
高さ：280cm　幅：46cm
厚さ：14cm　粘板岩

No.5



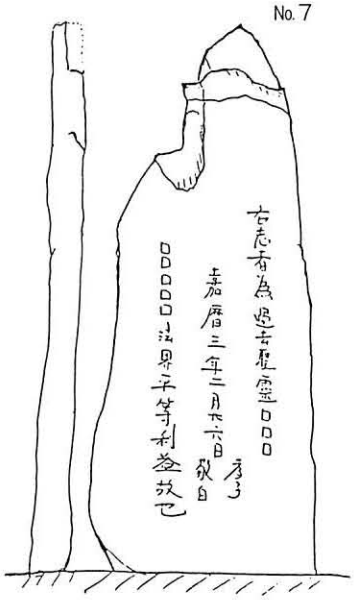
高さ：352cm　幅：78cm
厚さ：14cm　粘板岩

No.6



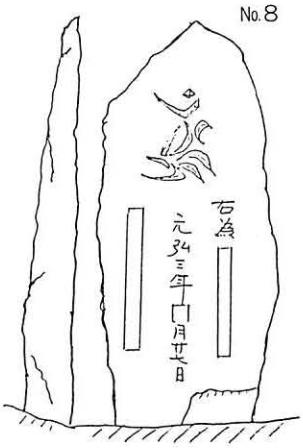
高さ：166cm　幅：70cm
厚さ：15cm　粘板岩

No.7



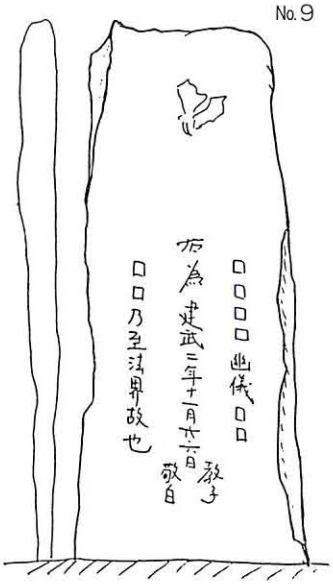
高さ：86cm　幅：35cm
厚さ：8cm　粘板岩

No.8



高さ：109cm　幅：43cm
厚さ：14cm　粘板岩

No.9



高さ：86cm　幅：36cm
厚さ：8cm　粘板岩

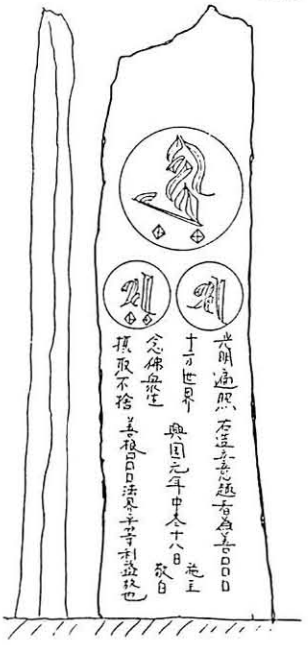
No.10

高さ：140cm　幅：34cm
厚さ：13cm　粘板岩

No.13

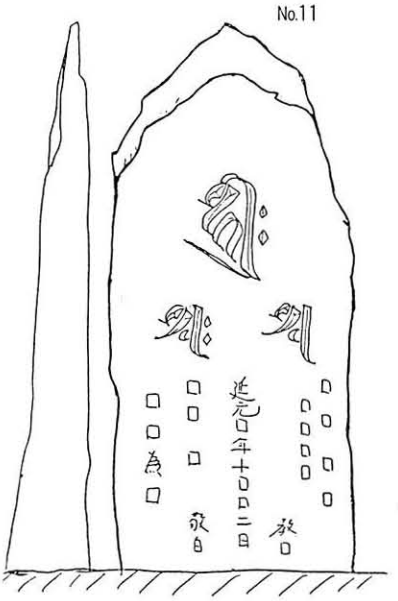
高さ：158cm　幅：57cm
厚さ：20cm　粘板岩

No.12



高さ：165cm　幅：40cm
厚さ：18cm　粘板岩

No.11

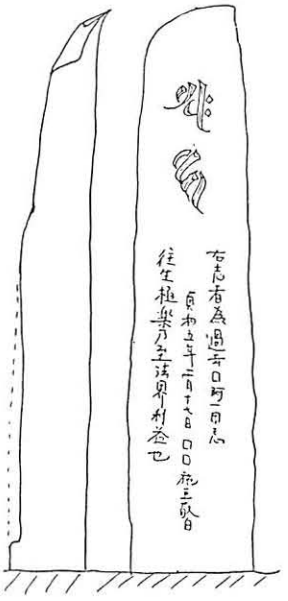


高さ：145cm　幅：60cm
厚さ：25cm　粘板岩

No.16

高さ：75cm　幅：34cm
厚さ：16cm　粘板岩

No.15



高さ：150cm　幅：30cm
厚さ：20cm　粘板岩

No.14

高さ：104cm　幅：36cm
厚さ：6cm　粘板岩

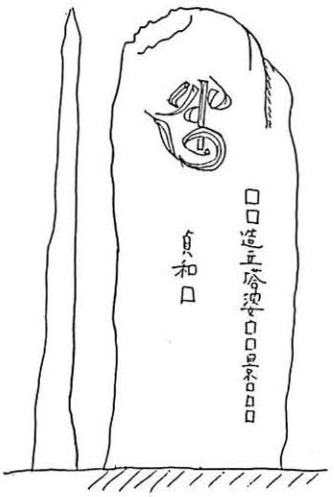
No.19

高さ：155cm　幅：40cm
厚さ：20cm　粘板岩

No.18

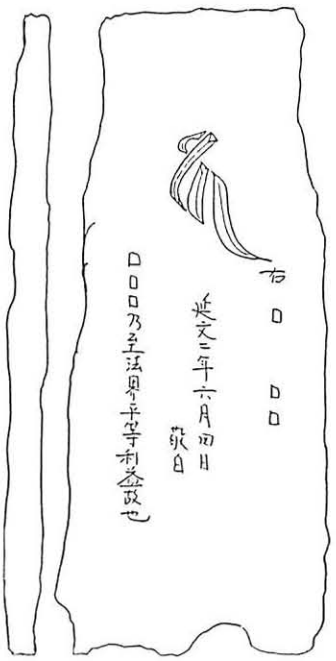
高さ：92cm　幅：27cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.17



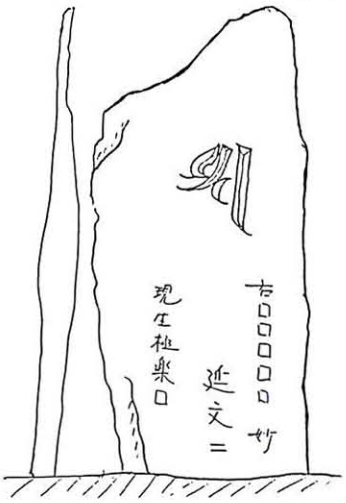
高さ：125cm　幅：40cm
厚さ：12cm　粘板岩

No.20



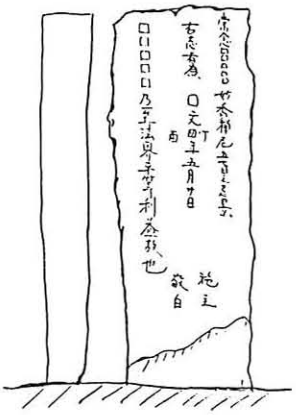
高さ：102cm　幅：40cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.21



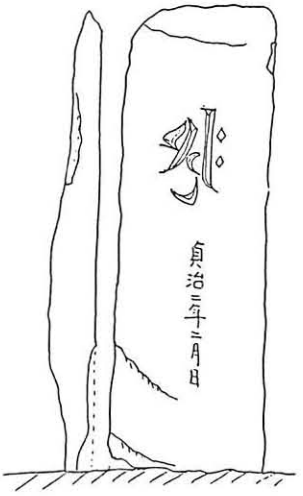
高さ：75cm　幅：35cm
厚さ：9cm　粘板岩

No.22



高さ：60cm　幅：20cm
厚さ：13cm　粘板岩

No.25



高さ：74cm　幅：24cm
厚さ：9cm　粘板岩

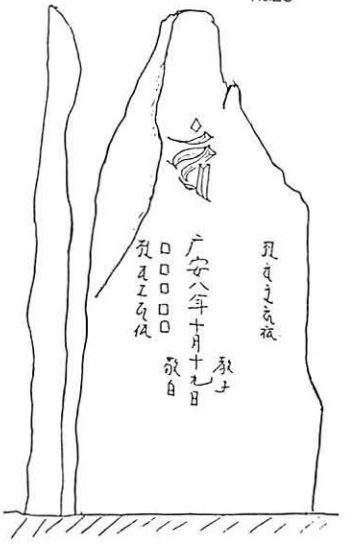
No.24

高さ：97cm　幅：24cm
厚さ：5cm　粘板岩

No.23

高さ：130cm　幅：30cm
厚さ：18cm　粘板岩

No.28

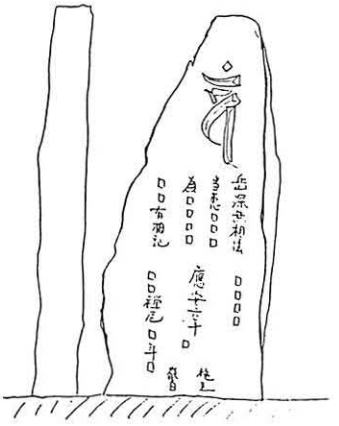


高さ：80cm　幅：35cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.27

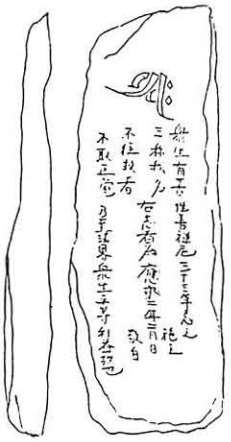
高さ：70cm　幅：15cm
厚さ：12cm　粘板岩

No.26



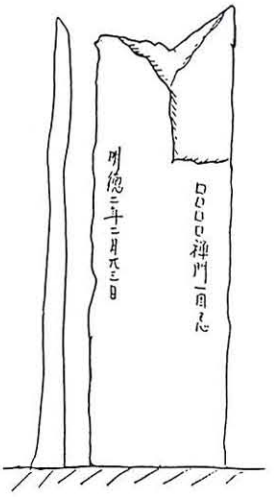
高さ：100cm　幅：35cm
厚さ：13cm　粘板岩

No.31



高さ：62cm　幅：23cm
厚さ：8cm　粘板岩

No.30



高さ：57　幅：28cm
厚さ：5cm　粘板岩

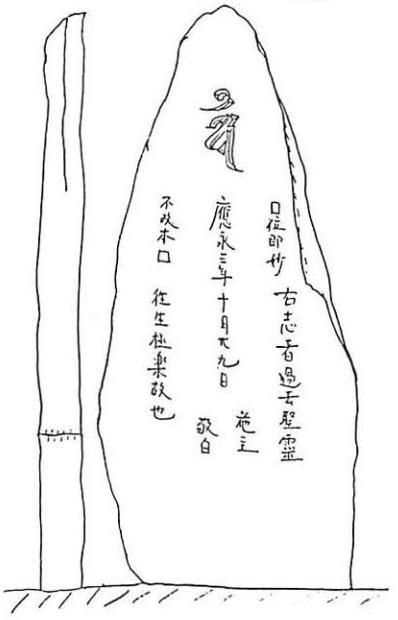
No.29

高さ：25cm　幅：15cm
厚さ：3.5cm　粘板岩

No.34

高さ：72cm　幅：27cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.33

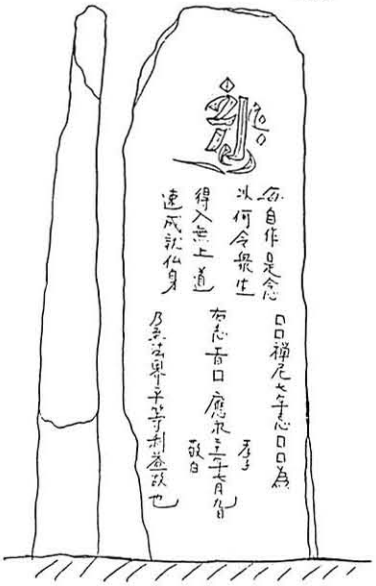


高さ：91cm　幅：39cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.32

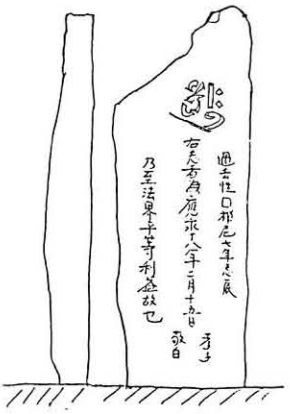
高さ：45cm　幅：22cm
厚さ：5cm　粘板岩

No.37



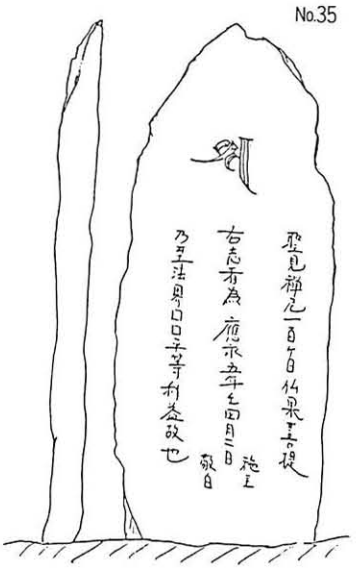
高さ：88cm　幅：28cm
厚さ：15cm　粘板岩

No.36



高さ：60cm　幅：20cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.35

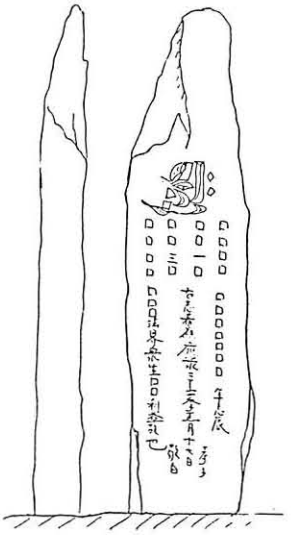


高さ：82cm　幅：36cm
厚さ：9cm　粘板岩

No.40

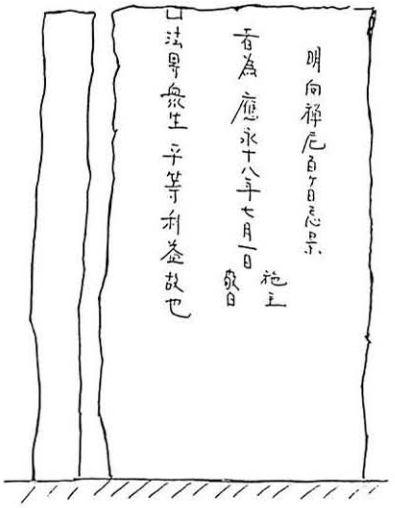
高さ：76cm　幅：20cm
厚さ：15cm　粘板岩

No.39



高さ：135cm　幅：23cm
厚さ：13cm　粘板岩

No.38

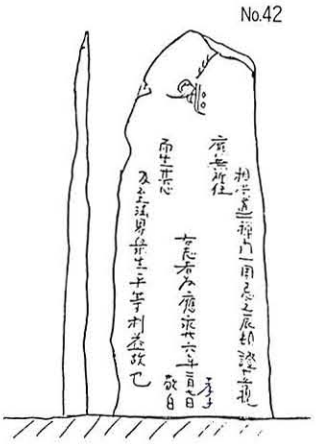


高さ：62cm　幅：33cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.43

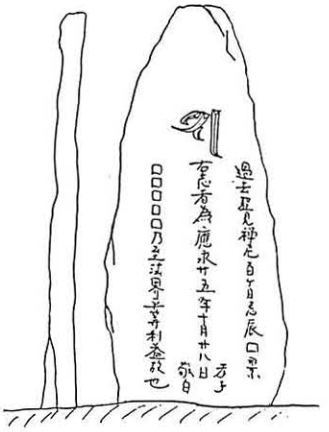
高さ：100cm　幅：29cm
厚さ：16cm　粘板岩

No.42



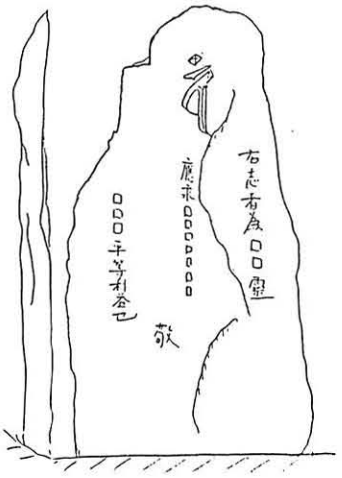
高さ：98cm　幅：35cm
厚さ：9cm　粘板岩

No.41



高さ：63cm　幅：28cm
厚さ：7cm　粘板岩

No.46

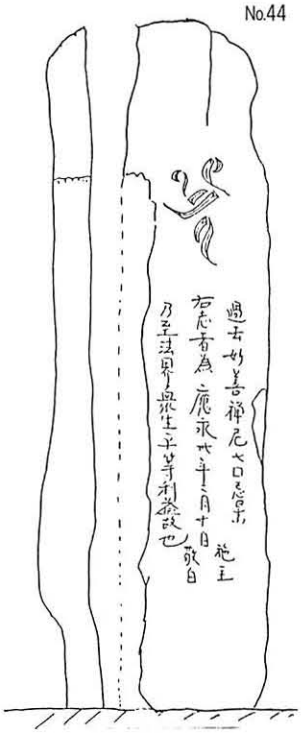


高さ：75cm　幅：37cm
厚さ：6cm　粘板岩

No.45

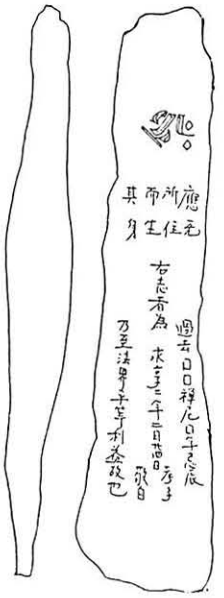
高さ：60cm　幅：30cm
厚さ：9cm　粘板岩

No.44



高さ：110cm　幅：20cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.48



高さ：92cm　幅：20cm
厚さ：12cm　粘板岩

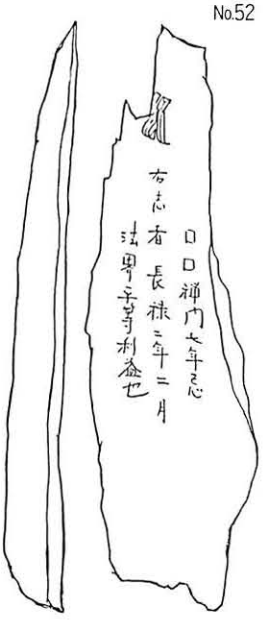
No.49

高さ：80cm　幅：31cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.47

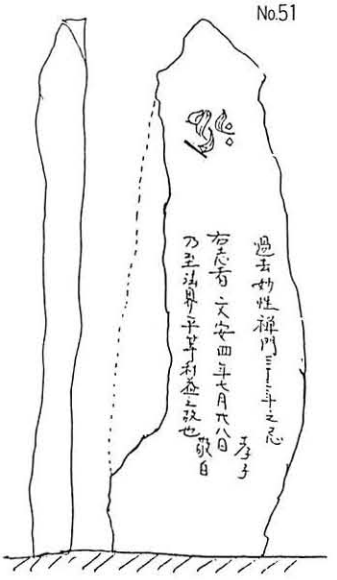
高さ：64cm　幅：32cm
厚さ：9cm　粘板岩

No.52



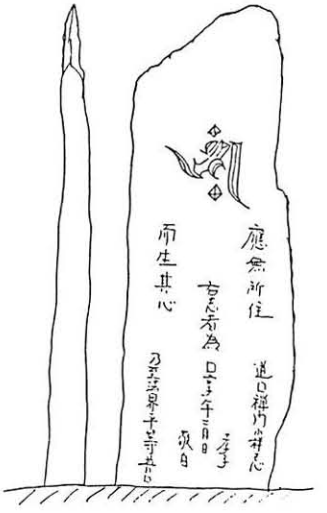
高さ：93cm　幅：24cm
厚さ：11cm　粘板岩

No.51



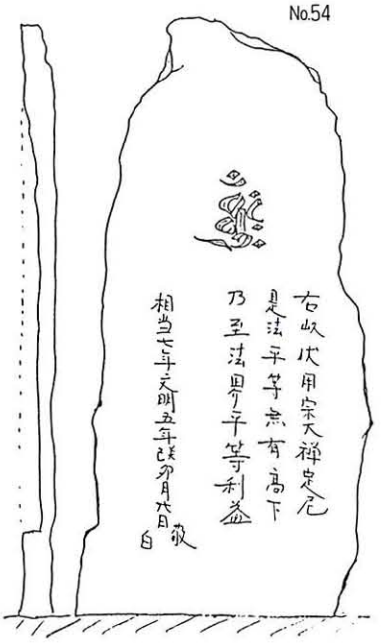
高さ：86cm　幅：27cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.50



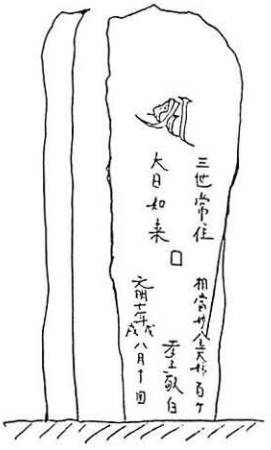
高さ：77cm　幅：26cm
厚さ：6cm　粘板岩

No.54



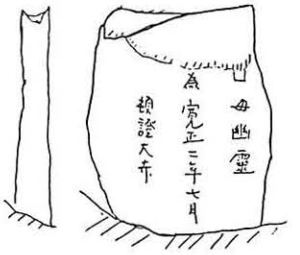
高さ：94cm　幅：45cm
厚さ：6cm　粘板岩

No.55



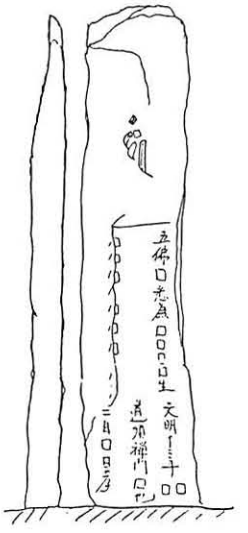
高さ：55cm　幅：15cm
厚さ：5cm　粘板岩

No.53



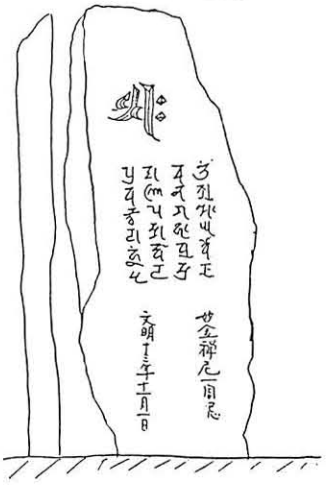
高さ：30cm　幅：22cm
厚さ：5cm　粘板岩

No.56



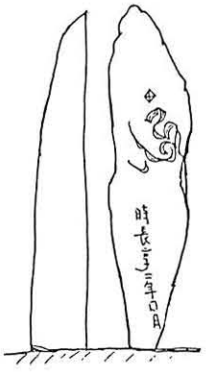
高さ：66cm　幅：15cm
厚さ：6cm　粘板岩

No.57



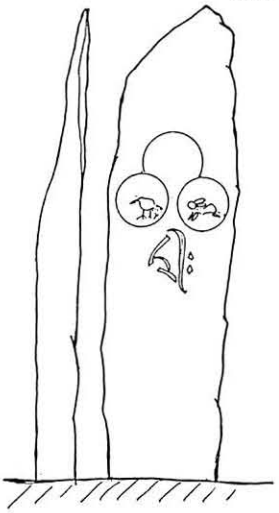
高さ：70cm　幅：26cm
厚さ：8cm　粘板岩

No.58



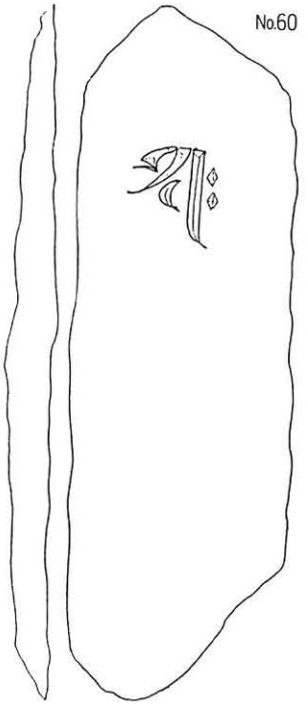
高さ：45cm　幅：10cm
厚さ：9cm　粘板岩

No.61



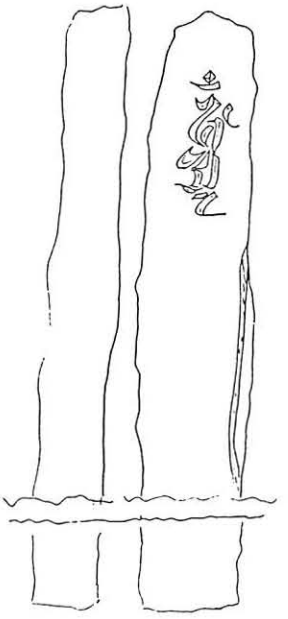
高さ：125cm　幅：25cm
厚さ：15cm　粘板岩

No.60



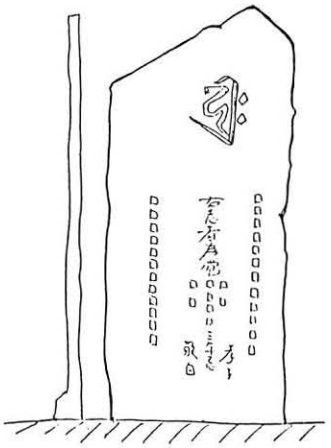
高さ：180cm　幅：53cm
厚さ：15cm　粘板岩

No.59



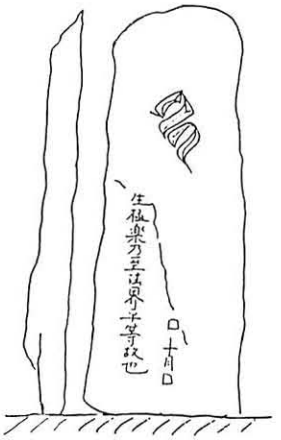
高さ：230cm　幅：24cm
厚さ：24cm　粘板岩

No.64



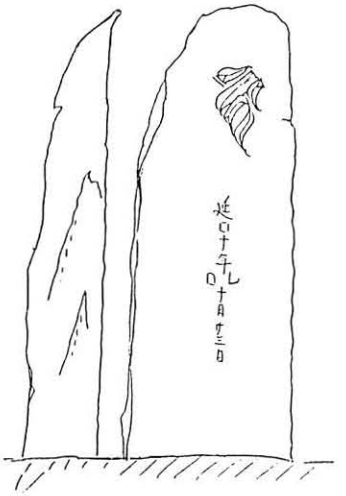
高さ：110cm　幅：44cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.63



高さ：110cm　幅：30cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.62

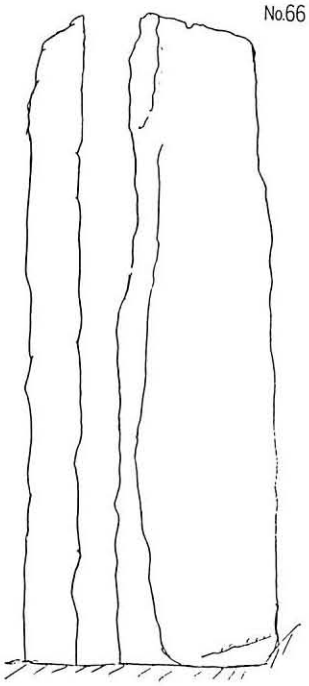


高さ：118cm　幅：37cm
厚さ：28cm　粘板岩

No.67

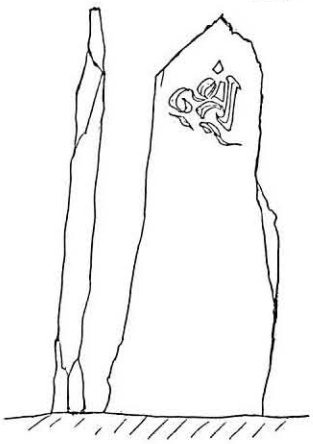
高さ：100cm　幅：17cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.66



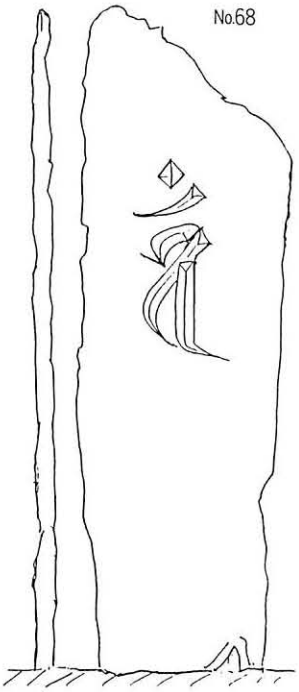
高さ：106cm　幅：22cm
厚さ：14cm　粘板岩

No.65



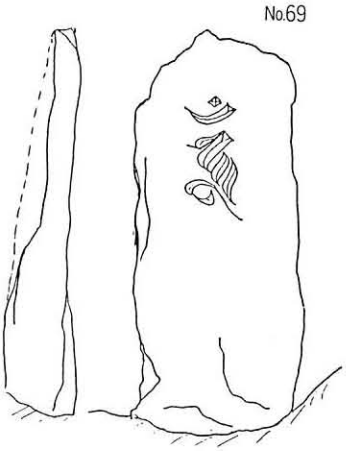
高さ：108cm　幅：35cm
厚さ：8cm　粘板岩

No.68



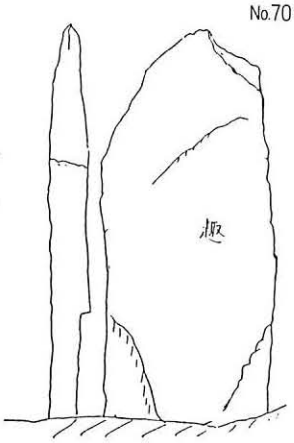
高さ：110cm　幅：34cm
厚さ：4cm　粘板岩

No.69



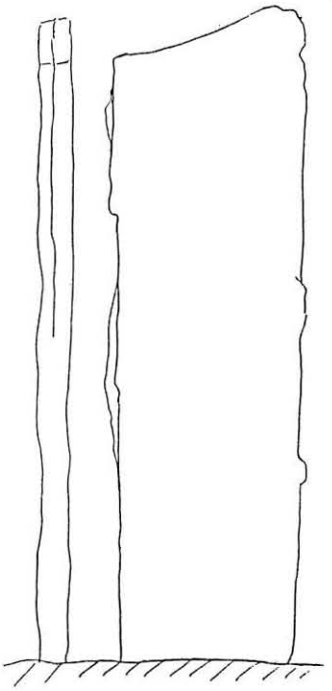
高さ：105cm　幅：36cm
厚さ：17cm　粘板岩

No.70



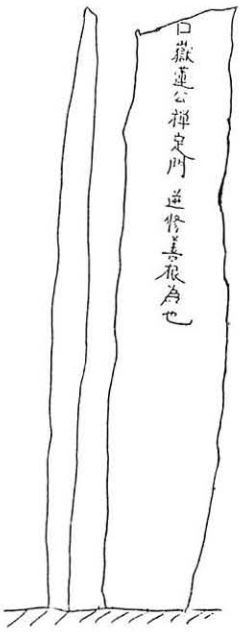
高さ：105cm　幅：37cm
厚さ：9cm　粘板岩

No.71



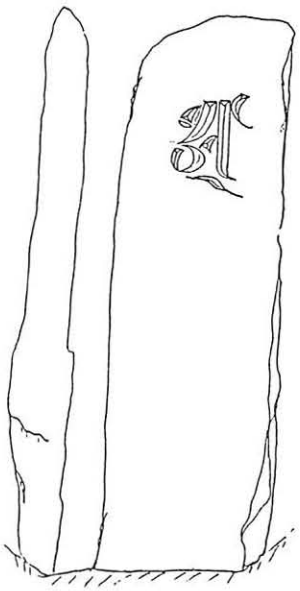
高さ：102cm　幅：30cm
厚さ：7cm　粘板岩

No.72



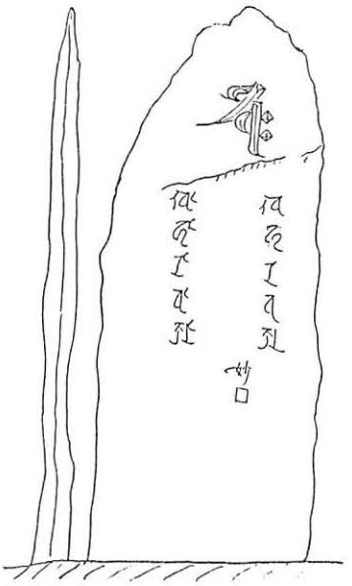
高さ：96cm　幅：16cm
厚さ：8cm　粘板岩

No.73



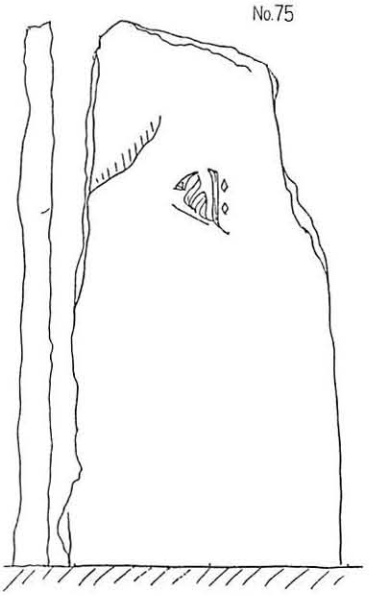
高さ：87cm　幅：27cm
厚さ：14cm　粘板岩

No.74



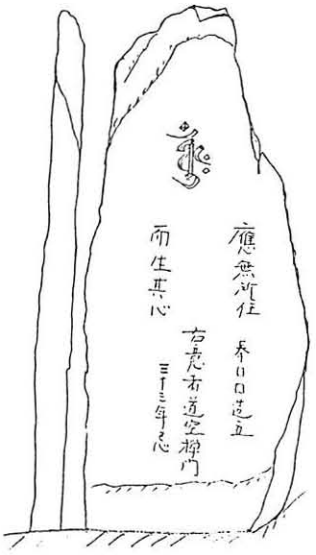
高さ：87cm　幅：39cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.75



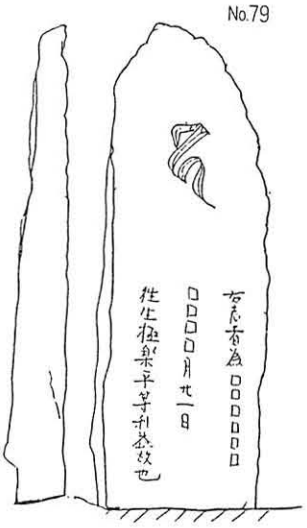
高さ：85cm　幅：43cm
厚さ：6cm　粘板岩

No.76



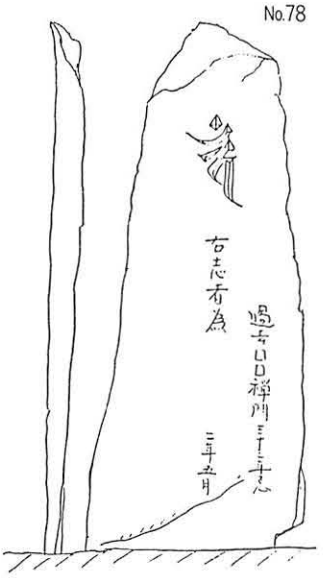
高さ：85cm　幅：33cm
厚さ：9cm　粘板岩

No.79



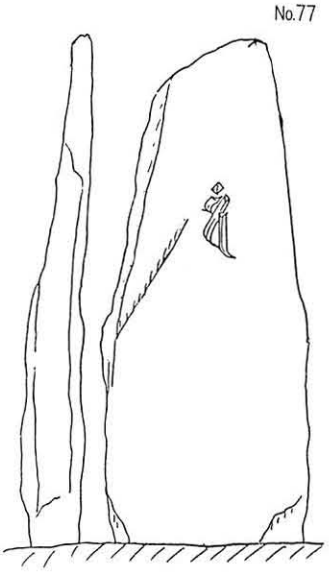
高さ：80cm　幅：24cm
厚さ：12cm　粘板岩

No.78



高さ：82cm　幅：38cm
厚さ：6cm　粘板岩

No.77

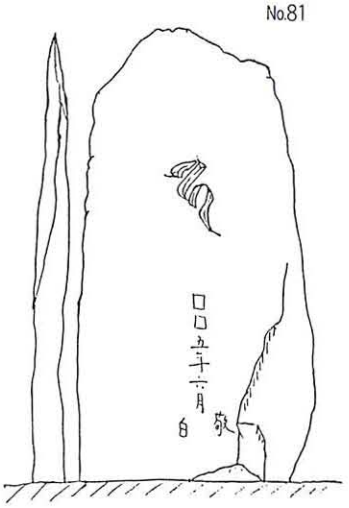


高さ：82cm　幅：30cm
厚さ：13cm　粘板岩

No.82

高さ：68cm　幅：30cm
厚さ：10cm　粘板岩

No.81



高さ：72cm　幅：38cm
厚さ：9cm　粘板岩

No.80

高さ：75cm　幅：48cm
厚さ：4cm　粘板岩

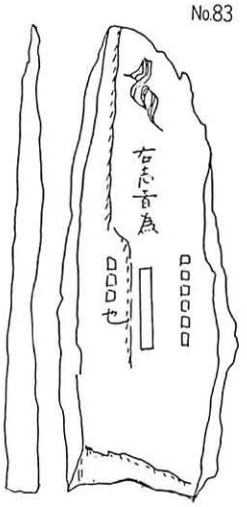
No.85

高さ：61cm　幅：27cm
厚さ：7cm　粘板岩

No.84

高さ：65cm　幅：34cm
厚さ：7cm　粘板岩

No.83

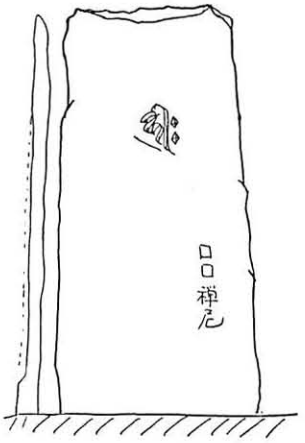


高さ：67cm　幅：18cm
厚さ：4cm　粘板岩

No.88

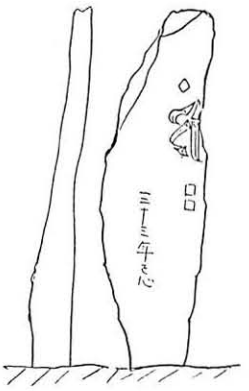
高さ：54cm　幅：34cm
厚さ：7cm　粘板岩

No.87



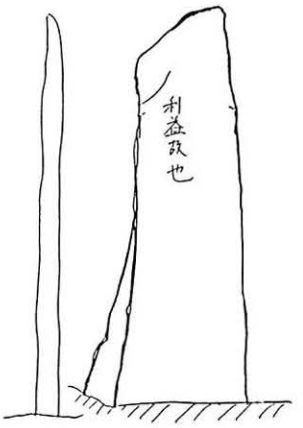
高さ：54cm　幅：27cm
厚さ：8cm　粘板岩

No.86



高さ：57cm　幅：14cm
厚さ：9cm　粘板岩

No.89

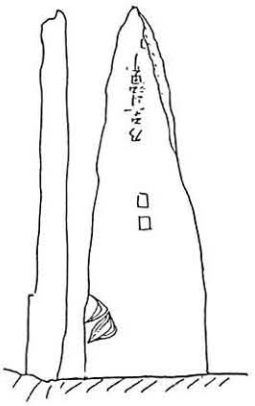


高さ：53cm　幅：18cm
厚さ：6cm　粘板岩

No.90

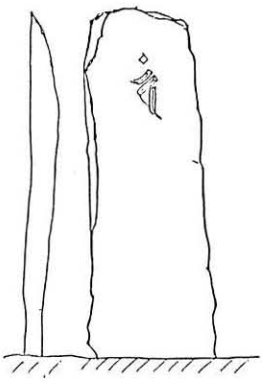
高さ：52cm　幅：25cm
厚さ：7cm　粘板岩

No.91



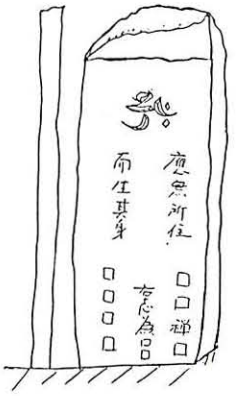
高さ：49cm　幅：16cm
厚さ：6cm　粘板岩

No.92



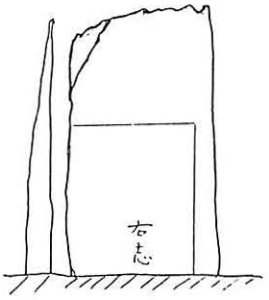
高さ：47cm　幅：16cm
厚さ：6cm　粘板岩

No.93



高さ：44cm　幅：16cm
厚さ：5cm　粘板岩

No.94



高さ：36cm　幅：20cm
厚さ：6cm　粘板岩

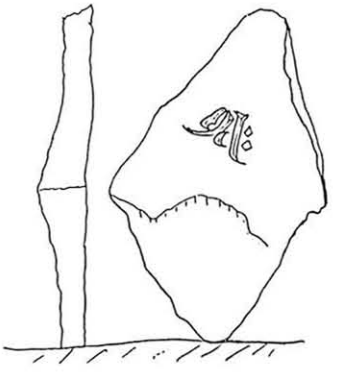
鋳銭関係史料目録

所蔵　石巻市教育委員会
目録作成　石巻市文化財保護委員　石垣　宏

1、鋳銭方　諸用留
2、仙台鋳銭場為取締出役御用書留　天保八
3、仙台鋳銭場為取締出役御用書留　安政六
4、水戸御領ゟ仙台領鋳銭吹立一件之留
5、仙台鋳銭出役ニ付被仰渡書御請書
6、仙台領石巻鋳銭場図　安政七
7、鉄銭吹方凡手續(新大判吹入銅合之覚　享保十一)
8、(諸書留)
9、百文銭方諸道具ゟ代付其外給金等雑留　万延二
10、下鉢取揚手續凡ゟ焼金手續荒増
11、江戸　京　佐洲　旧座人名前　石津
12、一閑雑慮録　慶応二～四
13、(弐朱金吹立)　天保三
14、上澄拵方ゟ箔出来之訳
15、(銀貨吹立高　正保二～明和八)　安永一
16、(諸御用留)　天保四
17、暇金取扱方留
18、江戸座坂倉氏書記之写
19、鋳銭方覚書　天保六
20、(御用留　文金百両ニ付……)
21、百文銭方小録　文久三
22、算法　座用秘書抜書　文政三
23、(御用留)
24、(申渡書　扣)
25、上澄箔方一件　大坂箔ゟ御觸書之写　安永五～七
26、文字金古金之図　寛政十一
27、(手本金銅差仕法)
28、京都上澄ゟ箔方扣
29、備忘録　天保八
30、開平方之図解
31、(御用留)文久四
32、(御用留)　安政六
33、(御用留)
34、(吹方・金山図解説)
35、(百文銭吹方勘定書扣)　慶応二
36、手　控
37、銅四文銭方少録　文久四
38、(百文銭吹方)　文久三
39、(百文銭吹方)
40、天保二年卯九月三日於古銅吹方役所銅ゟ金目濃り候御様し手續書
41、(京都金座人書上)
42、(申渡書)
43、従後藤氏御勘定所江出御書面写
44、(宝貨)
45、(鋳銭宜下　詔書)文久三
46、焼金類取扱申渡之写　文政十二
47、秘　天保十二
48、(鋳造の過程)
49、下金代金割合凡積勘定書
50～52、(鋳銭場図面)
53、新規弐分判　御用方之留　文政一
54～57　(書　状)

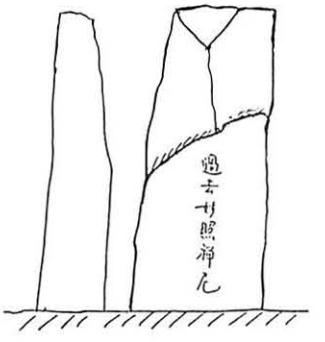
※　この「鋳銭関係史料」は、昭和六十一年四月に仙台市宝古堂より購入したもので、昭和五十四年に購入した「金局公用誌」同様、今後計画的に解読を進め、文化財だよりなどを通じて紹介していきます。

No.95

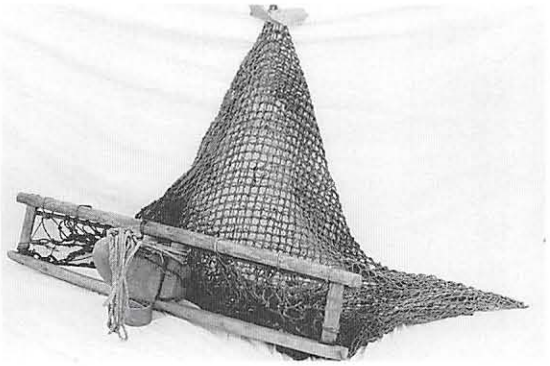


高さ：35cm　幅：22cm
厚さ：5cm　粘板岩

No.96

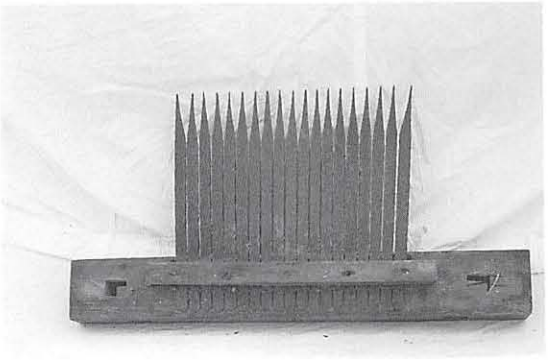


高さ：24cm　幅：10cm
厚さ：8.5cm　粘板岩



▲コヒキ

▲タコツボ



▲千歯コキ

急速な技術文明の進歩発達によって、社会は激しく変動しています。それに伴って生活や労働の形態も著しく変化し、昔から伝承されてきた慣行・習俗等はほとんど実施されなくなってきています。

特に、生活や労働を支えてきた民具等は、その機能が失われると紙屑のように拾てられているのが現状ではないでしょうか。

石巻市教育委員会では、これら失われていく民俗資料や民具等について、昭和50年度から地区毎に調査収集を行い昭和59年度まで収集した民具等を整理し、目録を作成しました。収集した民具等は現在石巻文化センターに収集し保存しており、今後、文化センターの展示構想の中で展示等公開をしていく予定です。

調査収集・目録作成
石巻市文化財保護委員　鈴　木　東　行

石巻地方民俗民具資料収集目録

整理番号	資料名	採集年月日	採集地（旧所有者）	備考
1	シロカキ機	昭53. 10. 26	水沼東沢（片岡伸行）	
2	〃	〃	〃（〃）	
3	シロカキマンガ	52. 10. 12	南境（今野駒吉）	
4	手オシシロカキ	53. 10. 26	水沼東沢（岡東平）	
5	稲刈機	〃	〃（〃）	
6	ワラキキ機	〃	〃（〃）	
7	種マキ機（麦）	52. 10. 12	南境（今野駒吉）	
8	ヤセウマ	50. 9. 3	祝田（杉浦利惣兵衛）	
9	千歯コキ	56. 8. 24	真野日向（奥津芳男）	
10	〃	54. 7. 24	水沼西沢（梅本安定）	
11	手オシ除草機	53. 10. 26	水沼東沢（片岡伸行）	
12	俵アミ機	〃	〃（森山慶弥）	
13	タワラケタ	〃	〃（〃）	俵アミ具
14	タレパカマ	〃	〃（片岡伸行）	
15	ヒッコミマンノウ	52. 10. 12	南境（松川慶記）	
16	〃	54. 7. 24	水沼西沢（梅本安定）	
17	三本マンノウ	52. 10. 12	南境（今野駒吉）	

整理番号	資料名	採集年月日	採集地（旧所有者）	備考
18	三本マンノウ	昭56．8．24	真野日向（松浦登代作）	
19	ミ（箕）	52．10．12	南境（今野駒吉）	
20	〃	51．10．15	田代浜大泊（津田善左衛門）	
21	トウフバコ	51．10．15	田代浜大泊（相沢精一）	
22	スゲガサ	53．10．26	水沼東沢（森山慶弥）	
23	手オケ	51．10．15	田代浜仁斗田（阿部敬蔵）	
24	カマ台	53．10．26	水沼東沢（森山慶弥）	
25	ガンドウ	52．10．12	南境金沢（日野晴光）	
26	アンドン	51．10．15	田代浜仁斗田（尾形俊一）	
27	〃	〃	田代浜大泊（津田市治）	
28	ランプ	〃	田代浜仁斗田（阿部三之亟）	
29	ザングリ	53．10．26	水沼東沢（岡東平）	
30	〃	56．8．24	真野日向（関はぎの）	
31	自在鉤	52．10．12	南境（今野駒吉）	
32	サンゴとヒ（梭）	53．10．26	水沼東沢（森山慶弥）	
33	ヒ（シオカマス）	56．8．24	真野日向（高橋政）	
34	ヒ	52．10．12	南境（榛沢隆雄）	
35	ハム	53．10．26	水沼東沢（片岡伸行）	
36	マンガ	56．8．24	真野日向（高橋政）	ドベ田用
37	フルウチ	53．10．26	水沼亀山畑（亀山やその）	
38	〃	56．8．24	真野日向（松浦登代作）	
39	シロカキニグラ	52．10．12	南境（今野駒吉）	
40	自在鉤	53．10．26	水沼東沢（森山慶弥）	
41	除草機	52．10．12	南境（今野駒吉）	
42	紡車	〃	南境金沢（日野晴光）	
43	キボネ	56．8．24	真野日向（高橋泰治）	
44	真綿カケ	〃	〃（関はぎの）	
45	火鉢	53．10．26	水沼東沢（岡東平）	
46	エサキリ	50．9．3	福貴浦（末永亀雄）	
47	モミドウシ	53．10．26	水沼東沢（岡東平）	
48	木ニグラ（シロカキ）	52．10．12	南境（今野駒吉）	
49	ニグラ	53．10．26	水沼東沢（片岡伸行）	
50	ホゴス	50．9．3	祝田（杉浦利惣兵門）	
51	ナコウド	50．9．4	狐崎（平塚吉之助）	
52	アミシキダイ	〃	〃（〃）	
53	ナコウド	〃	〃（〃）	
54	糸ガエシ	57．8．20	折浜（平塚亥之助）	
55	ネリガイ	50．9．4	牧浜（阿部春雄）	
56	〃	50．9．3	祝田（須田武治）	
57	カイ	57．8．20	折浜（伊妻辰蔵）	
58	サデ	51．10．15	田代浜仁斗田（尾形一郎）	
59	〃	50．9．3	祝田（鈴木文吉）	
60	タモ	〃	福貴浦（末永亀雄）	
61	〃	〃	〃（高橋学）	

整理番号	資料名	採集年月日	採集地（旧所有者）	備考
62	サデ	昭50．9．4	牧浜（山口源蔵）	
63	ナマコトリカギ	50．9．3	祝田（杉浦利惣兵衛）	
64	〃	〃	〃（〃）	
65	タコトリカギ	55．7．25	小竹（阿部力蔵）	
66	カギ	50．9．4	狐崎（平塚吉之助）	
67	ナサシ	51．10．15	田代浜仁斗田（尾形一郎）	
68	ハモド	55．7．25	小竹（阿部力蔵）	
69	〃	〃	〃（〃）	
70	〃	〃	〃（〃）	
71	〃	50．9．4	渡波祝田（杉浦利惣兵衛）	
72	〃	57．8．20	折浜（相沢登代治）	
73	〃	50．9．4	祝田（杉浦利惣兵衛）	
74	ウジ	50．9．3	福貴浦（阿部昭寿）	
75	〃	〃	〃（〃）	
76	ナカゴ	57．8．20	折浜（亀山巌）	
77	〃	50．9．3	祝田（阿部源三郎）	
78	〃	57．8．20	折浜（亀山巌）	
79	〃	55．7．25	小竹（阿部力蔵）	
80	〃	57．8．20	折浜（相沢登代治）	
81	〃	〃	〃（〃）	
82	ハモの延縄	〃	〃（亀山巌）	
83	カツギカゴ	〃	〃（〃）	
84	セイロ	57．8．20	〃（平塚一郎）	
85	カニカゴ	55．7．25	小竹（阿部力蔵）	
86	ボーケカゴ	50．9．3	祝田（佐々木力）	
87	テツギネ（キネ）	57．8．20	折浜（相沢登代治）	
88	千本ギネ（キネ）	53．10．26	水沼東沢（岡東平）	
89	〃	〃	〃（〃）	
90	〃	57．8．20	折浜（相沢登代治）	
91	ハネゴ	50．9．4	牧浜（山口源蔵）	
92	ヒツコ	51．10．15	田代浜大泊（相沢精一）	
93	ヨコビツ（ヒツコ）	〃	〃（〃）	
94	包丁サシ	〃	〃（〃）	
95	ツルベ	〃	〃（〃）	
96	ザルアゲダイ	〃	〃（〃）	
97	拍子木	53．10．26	水沼東沢（森山慶弥）	
98	コナヒキウス	51．10．15	田代浜大泊（相沢精一）	
99	ヒキウス	〃	〃（〃）	豆腐用
100	ランプ	〃	〃（津田光郎）	
101	霧中信号器	〃	〃（津田いち）	
102	アバ	〃	〃（津田一雄）	
103	スノコ（簀）	〃	〃（津田いち）	
104	コヒキ	〃	田代浜仁斗田（阿部三之亟）	
105	ハラミ	51．10．15	田代浜仁斗田（相沢幸雄）	

整理番号	資料名	採集年月日	採集地（旧所有者）	備考
106	アバ	昭51. 10. 15	田代浜仁斗田（相沢幸雄）	
107	サラ	〃	〃（〃）	
108	サカダル	〃	田代浜大泊（相沢精一）	
109	フゴ	50. 9. 3	祝田（杉浦利惣兵衛）	
110	スカリ(ヤスカリ)	〃	福貴浦（阿部時寿）	
111	ノリダケ	〃	祝田（杉浦利惣兵衛）	
112	消火用ポンプ	〃	鹿立（平塚利右衛門）	
113	桑キリ包丁	52. 10. 12	南境（今野駒吉）	
114	糸トリ	〃	南境金沢（日野清光）	
115	消毒器	53. 10. 26	水沼東沢（岡東平）	
116	ロマワリ	〃〃	〃（〃）	
117	サデ	50. 9. 3	祝田（須田武治）	
118	鉄ビン	〃	〃（杉浦利惣兵衛）	
119	ヒツコ	〃	〃（阿部政治）	
120	カキバサミ	〃	〃（佐々木力）	
121	エイジコ	〃	〃（阿部政治）	
122	（沖用手袋）	〃	〃（〃）	
123	ワタシガネ	〃	〃（鈴木文吉）	
124	アバ（ウキ）			
125	テングサカギ	50. 9. 3	牧浜（阿部久男）	
126	イシャリ	〃	〃（山田源蔵）	
127	ゴトク	〃	〃（阿部金三郎）	
128	ログイ	〃	〃（山田源蔵）	
129	イレハラ	〃	〃（〃）	
130	エナガ（ナガエ）	〃	〃（山口光男）	
131	ハエトリ	〃	〃（豊島富雄）	
132	弁当箱	〃	〃	
133	ホタテカゴ	〃	〃（阿部金三郎）	
134	タコカゴ	〃	祝田（佐々木力）	
135	シタナガカゴ	〃	福貴浦（阿部時寿）	
136	縄（な）カゴ	〃	佐須（須田伊奈助）	
137	アワビカゴ	51. 10. 15	田代浜大泊（相沢精一）	
138	シッチコ（汁器）	53. 10. 26	水沼東沢（岡東平）	
139	高足ゼン	52. 10. 12	南境（今野駒平）	
140	ヒッコミマンノウ	〃	〃（〃）	
141	ディスガマ	50. 9. 3	祝田（杉浦利惣兵衛）	
142	タコツボ	〃	〃（〃）	
143	ノリス	〃	〃（〃）	
144	カッツァ	〃	〃（鈴木文吉）	
145	手カギ	〃	〃（杉浦利惣兵衛）	大、小2個
146	セミ	〃	狐崎（阿部貞一）	
147	チンチョ(タルカツギ)	〃	祝田（杉浦利惣兵衛）	樽運搬に用いる
148	（夜間標識）	〃	狐崎（阿部貞一）	
149	ナカゴ	〃	〃（平塚勤）	

整理番号	資料名	採集年月日	採集地（旧所有者）	備考
150	ナカゴ	昭51. 10. 15	田代浜仁斗田（尾形一郎）	
151	ヨコビツ	〃	〃（阿部三之亟）	
152	ハモド	〃	〃（高橋学）	
153	ナコウド	〃	〃（尾形一郎）	
154	ハモド	〃	〃（〃）	
155	〃	〃	〃（尾形俊一）	3個
156	ナカゴ	50. 9. 3	福貴浦（阿部武夫）	タラハエナワ
157	〃	〃	〃（〃）	ハモドハエナワ
158	〃	〃	〃（〃）	タラハエナワ
159	カメ	〃	牧浜（阿部与吉）	タコ釣用
160	アバ	〃	〃（山口光男）	(3個)ウキ
161	アバ	〃	〃（豊島義雄）	大（ガラス玉）
162	〃	〃	〃（〃）	小（ガラス玉）
163	オワン	〃	〃（〃）	大
164	〃	〃	〃（〃）	小
165	カツツ	〃	〃（阿部時寿）	染料
166	カワハギ	〃	福貴浦（阿部金一）	
167	釣針	〃	〃（阿部雄）	マグロ
168	テンビン	50. 9. 4	〃（高橋定義）	いか釣用
169	〃	〃	〃（阿部辰三郎）	〃（ツノ4個）
170	〃	〃	〃（高橋善五郎）	〃
171	〃	〃	〃（〃）	〃（ツノ8個）
172	ツノ	〃	〃（阿部定雄）	〃
173	イシヤリ	〃	〃（阿部留治）	たこ釣用
174	〃	〃	〃（〃）	〃
175	テングサカギ	〃	〃	
176	バンドウ	50. 9. 3	祝田（阿部政治）	
177	テングサカギ	50. 9. 4	竹浜（平塚裕一）	
178	ハモド	〃	〃（〃）	
179	ヘナとヘナ石	〃	〃（〃）	ハモド延縄用
180	ハヤシ	〃	牧浜（阿部金二郎）	
181	（釜の）フタ	50. 9. 3	〃（豊島富雄）	
182	ハモド	51. 10. 15	田代浜仁斗田（尾形伊亮）	
183	〃			
184	ミズタル	51. 10. 15	田代浜大泊（相沢精一）	
185	オミキタル	〃	〃（〃）	小・記銘あり
186	〃	〃	〃（〃）	大・〃
187	ミズタル	〃	〃（〃）	
188	トバアミダイ	〃	〃（〃）	
189	ドバアミのツツロウ	51. 10. 15	〃（〃）	
190	オゼン	50. 9. 3	狐崎（平塚金吾）	サカゼン
191	〃	〃	〃（〃）	〃
192	〃	〃	〃（〃）	〃
193	千歯コキ	52. 10. 12	南境（今野駒吉）	

整理番号	資料名	採集年月日	採集地（旧所有者）	備考
194	糸アキ（カセ）	昭52．10．12	南境（日野晴光）	
195	書類箱	〃	〃（梶原良興）	
196	メガネ	51．10．15	田代浜大泊（相沢精一）	
197	〃	50．9．3	祝田（杉浦利惣兵衛）	
198	アシナガ	51．10．15	田代浜仁斗田（阿部啓蔵）	
199	コヤシマンノウ	52．10．12	南境（今野駒吉）	
200	エジコ	51．10．15	田代浜大泊（津田忠雄）	
201	信号（赤）ランプ	〃	〃（津田いつ）	
202	カンバン布地	〃	〃（〃）	
203	ツノ	〃	〃（〃）	いか釣用
204	トウフバコ	〃	〃（相沢精一）	
205	〃	〃	〃（〃）	ふたつき
206	千歯コキ	〃	〃（〃）	
207	沖箱	〃	〃（〃）	ベントウ箱
208	ミズタル	〃	〃（〃）	
209	ミソヘラ	〃	〃（〃）	
210	ミズタル	〃	〃（〃）	
211	オミキタル	〃	〃（〃）	
212	モロミクミ	〃	〃（〃）	
213	ハカリ・マス	〃	〃（〃）	2.5合
214	〃	〃	〃（〃）	1合
215	包丁	〃	〃（〃）	
216	〃	〃	〃（〃）	
217	コク箱	〃	〃（〃）	
218	ウキ・アバ	〃	田代浜仁斗田（尾形一郎）	刺網用
219	〃	〃	〃（〃）	〃
220	ヒノシ	〃	〃（阿部三之亟）	〃
221	テンビン	〃	〃（尾形伊亮）	
222	〃	〃	〃（尾形荘助）	
223	カメ	〃	〃（尾形一郎）	
224	オモリイシ	〃	〃（尾形荘助）	こしき用
225	イケスカゴ	50．9．4	牧浜（山口源蔵）	
226	ウキタル	〃	〃（山口岩男）	
227	シャコイケカゴ	〃	福貴浦（阿部惇）	
228	シタナガカゴ	〃	〃（阿部金晴）	
229	アミ筒（カゴ）	〃	〃（阿部与吉）	自製
230	チンチョ	〃	〃（山口源蔵）	〃
231	タラ縄ギバ（アバ）	50．9．3	〃（阿部菊次郎）	にら縄用
232	ミカドランプ	〃	〃（高橋学）	
233	テンビン	〃	〃（末永亀雄）	いか釣用
234	ツノ	〃	〃（〃）	〃
235	〃	〃	〃（〃）	自製
236	〃	〃	〃（〃）	〃（2コ）
237	〃	〃	〃（〃）	〃（2コ）

整理番号	資料名	採集年月日	採集地（旧所有者）	備考
238	ツノ	昭50．9．3	福貴浦（末永亀雄）	自製（3コ）
239	〃	〃	〃（〃）	〃
240	〃	〃	〃（〃）	〃
241	〃	〃	〃（〃）	いか釣用
242	タコツボ	〃	〃（阿部義雄）	
243	〃	〃	〃（阿部一夫）	
244	ナカゴ	〃	祝田（阿部源三郎）	
245	ボラサシ網	〃	〃（佐々木力）	
246	〃	〃	〃（〃）	
247	アワビイケスカゴ	〃	〃（杉浦利惣兵衛）	
248	イワイ（祝）ダル	58．8．22	月浦（高橋孝一）	
249	〃	〃	〃（〃）	
250	湯トウ	〃	〃（〃）	
251	チョウシ（銚子）	〃	〃（〃）	小
252	チョウシ（銚子）	〃	〃（〃）	大
253	火消しガメ	〃	〃（高橋うめ）	
254	（テブクロ）	〃	〃（大井西一）	防寒櫓こぎ用
255	カギのソウ（カギツルシ）	〃	〃（阿部よし子）	
256	ロマルのダイ	〃	〃（〃）	ゴトクの代り
257	ツリ	〃	〃（〃）	自在釣の部品
258	火バシ	〃	〃（〃）	
259	火鉢	〃	〃（高橋孝一）	
260	書類箱	〃	〃（高橋福七）	
261	ツノキリ（イカリの）	〃	〃（大井西一）	
262	ウジイカリ	〃	〃（〃）	
263	鉄ビン	〃	〃（阿部義高）	
264	手アソビ	〃	〃（阿部よし子）	
265	〃	〃	〃（高橋孝一）	
266	ロマル	〃	〃（阿部よし子）	
267	ネコアシゼン	〃	〃（高橋孝一）	
268	石油ランプ	〃	〃（大井西一）	西洋ランプ
269	釣針・バケ・トンボの釣針	〃	〃（相沢太郎）	鰹釣用、ビンナガ釣
270	カサネドンブリ	〃	〃（高橋孝一）	3個1組
271	オミキスジ	〃	〃（〃）	
272	サカヅキ	〃	〃（〃）	
273	〃	58．8．22	〃（〃）	
274	ハエトリ	〃	〃（阿部義高）	
275	キュウス	51．10．15	田代浜大泊（津田忠雄）	
276	サンゴサカヅキ	〃	〃（〃）	
277	サカヅキ	〃	〃（〃）	
278	醤油サシ	〃	〃（〃）	
279	タンポアゲ	〃	〃（〃）	
280	ワク	〃	〃（〃）	
281	ウキダマ	〃	〃（〃）	3個

整理番号	資料名	採集年月日	採集地（旧所有者）	備考
282	アバリ	昭51．10．15	田代浜大泊（津田忠雄）	
283	アゲ	〃	〃（〃）	
284	ナゲモリ	〃	〃（〃）	
285	棒カギ	〃	〃（〃）	
286	ウジ	〃	〃（〃）	
287	ノンコ	〃	〃（〃）	
288	メシザル	59．	〃（津田とよの）	
289	〃	〃	〃（相沢武雄）	
290	ランプ	〃	〃（〃）	
291	豆ランプ	〃	〃（〃）	
292	ダイスガマ	〃	〃（〃）	
293	セイロ	〃	〃（〃）	
294	キネ	59．	〃（〃）	
295	ヨコヒツ	〃	〃（〃）	
296	テッキネ	〃	〃（〃）	
297	千歯コキ	〃	〃（〃）	
298	〃	〃	〃（〃）	
299	イシヤリ	57．8．20	折浜（相沢登代治）	たこ釣具
300	糸車	〃	〃（亀山和吉）	漁網用
301	ワラスグリ	〃	〃（亀山巌）	
302	イシヤリ	〃	〃（平塚太郎）	たこ釣用
303	ブロック（帆巻き）	〃	〃（亀山巌）	
304	フヨ切板	〃	〃（相沢登代治）	
305	アバリ	〃	〃（亀山巌）	
306	〃	〃	〃（〃）	鮪の巾着網用
307	ログイ	〃	〃（亀山巌・重五郎）	2コ
308	テングサカギ	〃	〃（〃）	
309	三本ヤス	〃	〃（相沢己代治）	
310	ホヤカギ	〃	〃（亀山健蔵）	
311	テンビン	〃	〃（亀山巌）	たこ釣用
312	〃	〃	〃（〃）	〃
313	センベヤキ	〃	〃（〃）	
314	クケダイ	〃	〃（亀山とし）	
315	ナ（縄）	〃	〃（相沢登代治）	
316	イリハラ	〃	〃（〃）	艪具
317	〃	55．7．25	小竹	〃
318	〃	〃	〃	〃
319	ロスコ（ログイ）	〃	〃	
320	コナ（小縄）バリ	〃	〃	
321	イナダ釣針	〃	〃	
322	トッパ	〃	〃	鰹釣用
323	アゲ	〃	〃	編網用
324	アバリ	〃	〃	
325	〃	51．10．15	田代浜仁斗田	

整理番号	資料名	採集年月日	採集地（旧所有者）	備考
326	マグロ釣針	昭51. 10. 15	田代浜仁斗田（阿部　久）	
327	ツノ	〃	〃	いか釣用
328	糸アキツノ	〃	〃　（阿部　久）	〃
329	トッパ	55. 7. 25	小竹	鰹釣用
330	アバリ	51. 10. 15	田代浜仁斗田	編網用
331	アゲ	〃	〃	
332	糸アキ	〃	〃	
333	ツノ	〃	〃	3個
334	アゲ	〃	〃	
335	アツギカゴ	57. 8. 20	折浜（亀山　巌）	
336	メグシ竹	〃	折浜（平塚　賢之助）	加工(イワシ乾燥)8本
337	ヤス	〃	〃（亀山　巌）	
338	アシナガゾウリ	〃	〃（平塚　亥之助）	
339	コンパス	〃	〃（亀山　重五郎）	
340	アバリ	〃	〃	
341	テツカ・フゴザル・小刀	〃	〃（平塚　亥之助）	栗の採集具
342	道具入れ箱	〃	〃（相沢　登代治）	沖用
343	沖ベントウ（バコ）	〃	〃（亀山　巌）	
344	網ヨリキカイ	〃	〃（　〃　）	
345	ニシン刺網	〃	〃（　〃　）	
346	テングサカギ	〃	〃（平塚　賢之助）	
347	キネ	58. 8. 22	月浦（新保　吉太郎）	
348	縄ナ（ヨリ）エ機械	〃	〃（高橋　孝一）	
349	ヤセウマ	59.	田代浜大泊（相沢　武雄）	
350	シロカキ機	〃	〃	
351	コヒキ	50. 9. 4	牧浜	
352	自在鉤	58. 8. 22	月浦（畑中　福治）	
353	ニボシカゴ	〃	〃（高橋　孝一）	
354	〃	〃	〃（　〃　）	
355	セイロ	〃	〃（　〃　）	
356	〃	57. 8. 20	折浜（亀山　巌）	
357	縄ヨリキカイ	58. 8. 22	月浦（大井　酉吉）	カキ養殖用
358	コメビツ	〃	〃（　〃　）	
359	カスクダキ	〃	〃（　〃　）	製造加工
360	水ガメ	〃	〃（高橋　うめ）	加工
361	ナガモチ	〃	〃（阿部　よし子）	
362	モッコ	〃	〃（大井　酉一）	
363	カギ竹	〃	〃（阿部　よし子）	
364	サカズキ	52. 10. 12	南境（日野　晴光）	小
365	〃	〃	〃（　〃　）	大
366	タンポ	〃	〃（　〃　）	
367	ユド	〃	〃（　〃　）	
368	カタクチ	〃	〃（　〃　）	
369	ヒノシ	57. 8. 20	折浜（相沢　登代治）	アイロン

整理番号	資料名	採集年月日	採集地（旧所有者）	備考
370	糸マキワク	昭52．10．12	南境（日野晴光）	
371	ワラジ	55．7．25	小竹	
372	トバ（カミ）ケタ	51．10．15	田代浜大泊（相沢精一）	№188、189と組合せ
373	千本ギネ	〃	〃（〃）	
374	マンゴク	53．10．26	水沼東沢	
375	千歯コギ	54．7．27	〃（梅本安定）	
376	千歯コギとダイ	59．	田代浜大泊	
377	〃	〃	〃	
378	足踏脱穀機	〃	〃	
379	〃	57．8．20	折浜（相沢登代治）	
380	〃	〃	〃（〃）	
381	タテビキノコギリ	51．10．15	田代浜大泊（津田忠雄）	
382	セイロ	59．	〃	
383	ナベ	52．10．12	南境	
384	タカゼン	53．10．26	水沼東沢	
385	カイセキゼン	52．10．12	南境（今野駒吉）	
386	ツヅラ	〃	〃（日野晴光）	
387	タンガラ	53．10．26	水沼東沢	
388	クワキリ（オシキリ）	52．10．12	南境	
389	ニグラ	53．10．26	水沼東沢	馬車馬用
390	〃	〃	〃	一般運搬用
391	シロカキニグラ	〃	〃	馬用
392	〃	〃	〃	牛用
393	エジコ	〃	〃	
394	千歯コキ	〃		
395	ヒモゴ	56．8．24	真野日向（高橋りきよ）	
396	バンドウ	53．10．26	水沼東沢	
397	〃	56．8．24	真野日向（高橋泰治）	小
398	〃	〃	〃（奥津芳男）	大
399	ハンテン	〃	真野日向（奥津多恵子）	夏物
400	〃	〃	〃（〃）	冬物
401	〃	53．10．26	水沼東沢	女子用
402	チャンチャンコ	〃	〃	
403	ハンテン	〃	〃	男子用
404	〃	〃	〃	女子用
405	防火用ポンプ	〃	〃（岡東平）	
406	タコトリカギ	50．9．3	祝田（杉浦利惣兵衛）	
407	ワカメキリカマ	51．10．15	田代浜大泊浜	（舟から刈る）
408	〃	〃	〃	（〃）
409	カッツア	50．9．3	祝田（杉浦利惣兵衛）	
410	ロ（艪）	57．8．20	折浜（伊妻辰蔵）	
411	〃	50．9．3	祝田（杉浦利惣兵衛）	
412	イカツリ竿	50．9．4	牧浜（末永留五郎）	
413	手モッコ	53．10．26	水沼東沢（森山慶弥）	

受贈図書

昭和61年1月～12月受領分

書名	編著者・寄贈者
宮城の古民家	宮城県教育委員会
宮城のカマ神（分布調査報告）	宮城県文化財保護協会
宮城県文化財調査報告書第111集 田柄貝塚（Ⅰ土器遺構　Ⅱ骨角牙製品　Ⅲ土製品石製品）	宮城県教育委員会
同第113集 塩釜漁港第七次整備計画及び港湾整備特別会計事業関連開発調査報告（新浜遺跡）	〃
同第114集 今熊野遺跡Ⅱ（縄文、弥生編）	〃
同第115集 亘理町畑中貝塚（黒森沢砂防流路工事関連調査報告）	〃
同第117集 七ヶ宿町小梁川遺跡（遺物包含層土器編）	〃
同第118集 宮城町観音堂遺跡、新宮前遺跡	〃
同第119集 若柳町柴の脇遺跡、鳴瀬町里浜貝塚等（昭和60年度詳略分布調査に伴う発掘調査報告）	〃
同第120集 東北横断自動車道遺跡調査報告書Ⅰ	〃
昭和59年度　年報	東北歴史資料館
研究紀要　第11巻	〃
昭和60年度　年報	〃
東北歴史資料館資料集16、馬場壇A遺跡Ⅰ	〃
文書目録第三集（門傳家文書Ⅰ）	〃
〃　（〃　Ⅱ）	〃
東北文化研究所紀要第17号	東北学院大学東北文化研究所
〃　第18号	〃
白鳥省吾の詩とその生涯	築館町教育委員会
歴　博（15～19）	国立歴史民俗博物館
小泊遺跡	河北地区教育委員会
牡鹿郡萬御改書上	女川町板橋山照源寺
愛島東部丘陵遺跡群・遺跡詳細分布調査Ⅱ	名取市教育委員会
松山町の文化財第1集	松山町教育委員会

書名	編著者・寄贈者
一般県道大島線改良工事に伴う駒形遺跡発掘調査	気仙沼市教育委員会
山王囲遺跡保存修理工事報告書	一迫町教育委員会
古文書調査報告書第1集	女川町教育委員会
多賀城市文化財調査報告第9集 山王遺跡	多賀城市教育委員会
同第10集　山王遺跡	〃
同第11集　高崎遺跡	〃
明治前期の瑞巌寺展	瑞巌寺博物館
瑞巌寺博物館年報	〃
北上・和賀地方の絵馬展	北上市立博物館
日本の美術　陶磁（中世編）	至文堂
図説・発掘が語る日本史(1)	新人物往来社
砂屋戸荒川館調査概要	(財)いわき市教育文化事業団
史跡根城跡発掘調査報告書Ⅷ	八戸市教育委員会
梁谷遺跡群発掘調査報告	大宮市教育委員会
東北原遺跡発掘調査報告	〃
大宮市遺跡調査会報告第15集	大宮市遺跡調査会
同第16集　西大宮バイパスNo.4	〃
島立南栗遺跡	松本市教育委員会
竹渕・南原遺跡	〃
梶梅渡遺跡	〃
島内遺跡群・上平瀬遺跡群	〃
推定信濃国府第四次調査	〃
蓮台遺跡	〃
岡田西裏遺跡	〃
島立条里的遺構	〃
宮渕本村遺跡（遺構編）	〃
いわきの城館跡調査報告書	いわき市教育委員会
賢沼ウナギ生息地調査報告書	〃
いわきの条里制遺構調査報告書	〃
北上川流域古代仏教の聖地 国見山極楽寺	北上市立博物館
鹿沼市のぶんかざい	鹿沼市教育委員会
いわき市埋蔵文化財調査報告 弘源寺貝塚	いわき市教育委員会
館報　第7号	埼玉県立歴史資料館
海の絵馬展図録	大船渡市立博物館

石巻市文化財だより既刊号案内

▽**第一号《田代特集》　昭和49年1月1日**
仁斗田貝塚の概観（楠本政助）
金石文・経塚について（佐藤雄一）
平塚八太夫文書について（木村敏郎）
田代島の神社仏閣（三宅宗議）
湊草刈山所在古碑群の移転

▽**第二号《特集・市内文化財の現状》　昭和49年5月10日**
埋蔵文化財の現状（木村敏郎）
石巻市板碑の現状（佐藤雄一）
石巻市の自然林―現状と保護について―（佐々木豊）
近世・近代資料の現状（石垣　宏）
住吉の旧毛利家（高橋勇一郎）
石巻鋳銭場と斉太郎節（石島恒夫）
根岸地区民俗資料調査報告（鈴木東行）

▽**第三号《昭和49年度文化財調査概報》　昭和50年3月29日**
高木観音堂板碑群調査の概要（佐藤雄一）
近世の古文書―鹿立・平塚文書―（石垣　宏）
祝田浜民俗調査報告（鈴木東行）
牧山地域の植生について（佐々木　豊）

▽**第四・五号《多福院特集・昭和50年度文化財調査》　昭和51年6月20日**
日輪山多福院の板碑群（佐藤雄一）
多福院文書・その他の文化財について（石垣　宏）
石巻市稲井地方の地質（高橋清治・菅原祐輔）
東浜地区生産民具（漁具）収集調査報告（鈴木東行）
稲井地区古文書分布調査（石垣　宏）
石巻の店蔵―高橋茶舗―（高橋勇一郎）

▽**第六号《昭和51年度文化財調査特集》　昭和52年11月25日**
方孔石について（高橋清治・菅原祐輔）
石巻市狐崎萱刈浜板碑群調査報告（佐藤雄一）
田代島平塚文書目録について（石垣　宏）
田代島民俗資料・民具収集調査報告（鈴木東行）

▽**第七号《埋蔵文化財緊急発掘調査特集》　昭和53年3月31日**
狐崎スケカリ浜遺跡の発掘調査―漁港関連道路建設にかかる緊急調査―
沼津貝塚の発掘調査―史跡標識設置部分発掘調査―
梨木畑貝塚の発掘調査―人骨埋葬状況調査―

▽**第八号《昭和52年度文化財調査特集》　昭和54年3月31日**
大浜遺跡発掘調査（木村敏郎）
古文書分布調査報告（石垣　宏）
南境地区民俗資料・民具収集調査報告（鈴木東行）
巨樹・名木等分布調査報告（佐々木　豊）

▽**第九号《昭和53年度文化財調査特集》　昭和55年3月31日**
平形山根貝塚発掘調査報告（木村敏郎）
古文書分布調査報告（石垣　宏）
水沼東沢地区民俗民具収集調査報告（鈴木東行）
鋳銭場資料「金局公用志」について（石垣　宏）

▽**第十号《昭和54年度文化財調査特集》　昭和56年3月31日**
石巻市指定文化財について
古文書分布調査報告（石垣　宏）
水沼西沢地区民俗民具収集調査報告（鈴木東行）
南境館跡測量調査報告（木村敏郎）

▼**第十一号《昭和55年度文化財調査特集・小竹浜地区の文化財》　昭和57年3月31日**
石巻市指定文化財について
板碑分布精密調査報告（佐藤雄一）
古文書分布調査報告（石垣　宏）
小竹浜地区民俗民具収集調査報告（鈴木東行）
弁天島植生調査報告（佐々木　豊）

▼**第十二号　昭和58年3月31日**
石巻市指定文化財について
南境地区の板碑（佐藤雄一）
モクゲンジの分布状況調査報告（佐々木　豊）
越田台遺跡発掘調査報告（木村敏郎）
真野日向日影民俗資料調査報告（鈴木東行）
五松山洞窟跡発掘調査の概要（三宅宗議）

▼**第十三号　昭和59年3月31日**
稲井大瓜地区の板碑分布調査（佐藤雄一）
月浦民俗民具資料調査報告（鈴木東行）
市内にある日本の重要な植物群について（佐々木豊）
毛利コレクション所蔵文書―伊達家文書(1)（石垣宏）

▽**第十四号　昭和60年3月31日**
真野萱原・舎那山長谷寺総合調査報告―その一―（佐藤雄一）
毛利コレクション所蔵文書―伊達家文書(2)（石垣　宏）
文化財めぐり・文化財講座・指定文化財・旧町名・表示石柱・文化財説明板・石巻市の遺跡他

▼**第十五号　昭和61年3月31日**
真野萱原・舎那山長谷寺総合調査報告―その2―（佐藤雄一）
田代島大泊民俗民具調査報告（鈴木東行）
文化財めぐり・指定文化財あんない・旧町名表示石柱・文化財標柱

※▼印は在庫が若干ありますので、ご希望の方はお申し出ください。

石巻市文化財だより（第16号）

昭和62年3月30日 印刷
昭和62年3月30日 発行

発行：石巻市教育委員会
石巻市日和が丘一丁目1番1号
電話（0225）95－1111 内線343

印刷：株式会社 鈴木印刷所
石巻市蛇田新谷地前121
電話（0225）22－4101